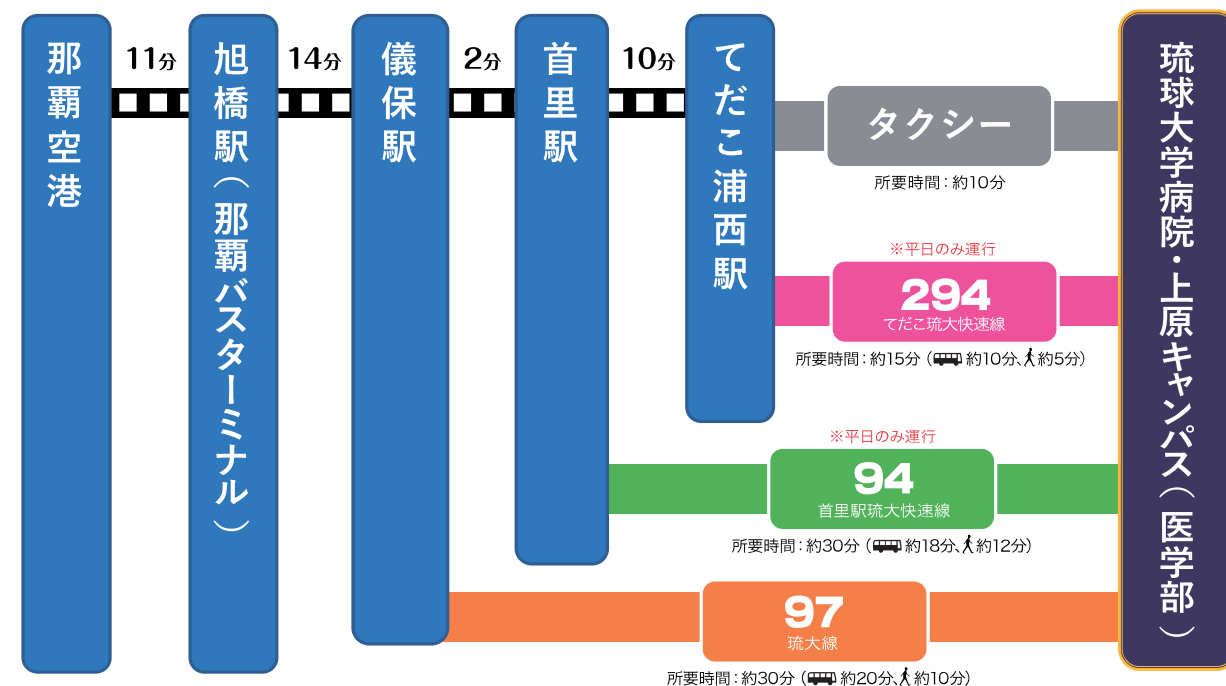


アクセス

那覇空港からモノレール



那覇空港から

【タクシー】所要時間:約35分

那覇空港 → 沖縄自動車道(西原IC) → 琉球大学医学部・病院

那覇空港 → 那覇うみそらトンネル → 国道330号 → 琉球大学医学部・病院

那覇バスターミナルから

【路線バス】所要時間:約50分

那覇バス97番（琉大線）

のりば:那覇バスターミナル(那覇市泉崎) 8番のりば

(経路) バスターミナル(泉崎) → 国際通り(牧志) → 儀保(首里) → 琉球大学病院前



西普天間キャンパス完成イメージ図(2025年4月開学予定)



琉球大学医学部 2024 概要

大学院／医学研究科・保健学研究科
医学部／医学科・保健学科

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE,SCHOOL OF HEALTH SCIENCES
GUIDE BOOK 2024



南に開かれた国際性豊かな医学部



大学院医学研究科長・医学部長

筒井 正人

Dean,
TSUTSUI Masato, M.D, Ph.D.

本学部の基本理念

FOUNDING CONCEPT OF THE FACULTY

琉球大学医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者を育成することを基本目的としています。

加えて、沖縄県のおかれた自然、地理及び歴史的特性をふまえ、島嶼環境に由来する困難な地域保健医療の充実や地域特性に根ざした医学・医療の課題解決に努めると共に、アジア・南太平洋地域を中心とする南に開かれた国際性豊かな医学部を目指しています。

The essential purpose of the Faculty of Medicine is to nurture physicians and medical science specialists who are willing to develop their specialized knowledge and skills with high ethical standards in professional research areas, and to carry out the research in all fields of medicine and medical science by responding adequately to the latest progress and social problems.

In addition, the Faculty is obligated to improve medical care in the local community, to resolve medical and health care problems, and to extend its promotional activities to countries in the Asian and Pacific regions based on recognition of the natural environmental conditions, geographic location and historical situation in the Ryukyu Islands.

目次

本学部の基本理念	02	8. 附属施設	30
アドミッションポリシー	04	LABORATORY CENTERS	
医学部・病院移転事業	06	9. 学生の定員・現員及び入学状況	32
		QUOTA AND ADMISSION OF STUDENTS	
1. 沿革	08	10. 卒後の主な就職先	33
HISTORY		MAIN PLACES OF EMPLOYMENT	
2. 歴代学部長・研究科長	12	11. 解剖体	34
SUCCESSIVE DEANS		AUTOPSIES FOR GROSS ANATOMY	
3. 教育・研究の特色	13	12. 図書・学術雑誌	34
EDUCATION, RESEARCH		COLLECTION OF BOOKS AND JOURNALS	
4. 社会貢献・国際交流	22	13. 各講座等主要研究	35
SOCIAL CONTRIBUTIONS AND INTERNATIONAL EXCHANGE		OUTLINE OF MAIN RESEARCH PROJECTS	
5. 組織図	24	14. 土地・建物、建物配置図	40
ORGANIZATION CHART		CAMPUS AND BUILDINGS	
6. 職員	26		
ACADEMIC AND ADMINISTRATIVE STAFFS			
7. 講座及び分野配置図	29		
DEPARTMENTS AND SUBJECTS MAP			



医学科・大学院医学研究科



保健学科・大学院保健学研究科

医学科 School of Medicine

医学科は、以下の資質を備えている人を求めています。

【一般選抜】

- 地域医療に貢献するための県民・地域住民意識をもてる人
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人
- 責任感が強く、人の身になって考え、行動できる人
- 常に自己点検を行い、自己啓発ができる人
- 創造性に富み、物事を理論的に整理・展開できる人
- 医学を学ぶ基礎学力を有する人
- 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶことができる人

【学校推薦型選抜Ⅱ】（大学入学共通テストを課す）（地域枠、離島・北部枠）

- 沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識をもてる人
- 地域の要請が高い診療科を選択し、診療科偏在の是正に貢献できる人
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人
- 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人
- 学習意欲の維持並びに自己学習ができる人
- 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶことができる人

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医科学

（修士課程）

1. 各々の専門分野での経験・知識・技術を活かして、生命医療科学・医療福祉の分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献したいと考える人
2. 医療の専門性を理解し、高度医療職業人として地域特性に対応した医療と福祉に従事することを目指す人
3. 修士課程での研究を基に、さらに博士課程への進学を志す人

医学

（博士課程）

1. 生命医療科学における次世代のリーダーを目指して深い学識と先駆的な研究能力を培い、国際的な場で活躍する研究者・教育者を志す人
2. 先端的医療を実践するために高度な知識や技術を身に付け、研究マインドを備え、高度専門職業人として地域の医学・医療水準の向上のために指導的な役割を担える臨床医を目指す人

保健学科 School of Health Sciences

本学科は看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指します。
そのため、以下の資質を備えている人を求めています。

- 生命科学、保健・医療・福祉に強い興味と関心を持ち、主体的に学ぶ意欲のある人
- 生命を尊重し、相手の身になって行動できる人
- 自らの目標に向かって自己啓発し、多様な人々と協働ができる人
- 論理的に物事を考え、科学的に解決する意欲のある人

大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

（博士前期課程・博士後期課程共通）

心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有し、多くの人々の疾病予防と健康増進及び健康資源の解明に貢献する研究マインドをもった研究者及び指導者、そして高度専門職業人として、国内外で活躍することを志す人を求めています。

（博士前期課程）

1. 広い視野に立った研究能力を有する保健学分野の教育・研究者及び指導者を目指す人
2. 保健学分野の高度な専門的知識と技術をさらに深く学ぼうとする人
3. 専門的な知識や技術を活かして、地域及び国際社会に貢献したい人
4. 保健学分野の高度専門職業人を目指す人 例：専門看護師、養護教諭(専修免許)、研究開発能力を有する臨床検査技師

（博士後期課程）

1. 沖縄の豊かな島嶼、海洋性、亜熱帯自然環境及び社会環境を基盤とする卓越した保健学研究を目指す人
2. 健康・長寿の維持増進及び再生や健康資源の開発に関する卓越した研究を目指す人
3. アジア太平洋諸国との国際学術交流を図り、島嶼国際保健に関する卓越した研究を目指す人

琉球大学医学部及び病院は、沖縄健康医療拠点の中核として、令和7年にキャンブ瑞慶覧（西普天間住宅地区跡地）に移転します。医学部及び病院では、“国際化”、“人材育成”、“先端研究・産業振興”、“医療水準の向上”を移転構想の柱とし、沖縄振興や長寿県沖縄の復活、国際保健（グローバル・ヘルス）への貢献を目指しています。また、この計画は、駐留軍用地跡地利用の先行モデルとして注目されています。

医学部・病院 移転事業



完成イメージ図



※イメージは設計段階でのものであり、今後の進捗により変更になる可能性があります。



※幹線道路側から見た移転予定地（令和6年5月現在）

移転構想

国際化

～未来を拓く国際性豊かな医療拠点～

国際水準の教育と医療の実現、また研究体制の構築に向け、国際医療拠点に相応しい機能と設備の整備を進めます。

- 医学部と病院の国際認証の取得
- 国内外の大学、医療機関、企業等との積極的な連携
- 国際医療拠点に相応しい病院環境の整備
- 保育園、授乳室、障がい者対応施設等のダイバーシティ（多様性）に対応したアメニティの充実

先端研究・産業振興

～世界に誇れる医学研究拠点の形成と産業振興～

沖縄特有の環境や資源を活かしつつ、最先端分野の研究の充実を図るとともに、人材が集まる組織の枠を超えた研究組織の構築を目指します。

- 先端医学研究センターを中心とした創薬等の最先端分野の研究
- 医工連携による医療機器等の開発
- 国、企業、近隣大学、研究機関から優秀な人材が集まる仕組みの構築
- 産業振興による地域の活性化
- 国内・国際学会開催による来訪者の増加

人材育成

～国際的な医療人材の育成と交流拠点の形成～

ニーズに柔軟に対応でき、また国際的に通用する教育システムの構築を進めるとともに、国内外大学等との連携体制の強化を図ります。

- グローバルな視野を持った医療者、医学研究者の育成
- 研究マインドを身に付けさせるための学部段階からの研究室配属
- 看護部と保健学科の連携による高度実践看護師の育成
- 海外大学と連携したクリニカルクラークシップ（臨床参加型実習）の充実
- 病院内における教育スペースの確保

医療水準の向上

～高度医療の提供による拠点形成～

中核病院としてがんや救急医療、また移植医療等への対応強化を図るとともに、災害対応や遠隔診療等の更なる充実により医療水準の向上を目指します。

- 化学療法や放射線治療分野の充実によるがん治療成績の向上
- 高度救命救急センターの設置
- 生体肝移植等の移植医療の充実
- 先進的医療に対応した手術室の充実
- 日帰り手術、光学診療等の充実による低侵襲治療の推進
- 沖縄県地域医療支援センターを拠点とした離島・へき地医療の充実



沖縄健康医療推進基金のご協力をお願い

移転に先立ち、学生及び皆様へ、より快適で安全な医学教育・研究・診療環境を提供するために、沖縄健康医療推進基金を設立しました。皆様のご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



昭和44年

保健学部校舎
(那覇市与儀)



昭和48年

保健学部及び附属病院
の鳥瞰図
(那覇市与儀)



昭和54年

医学部の設置



昭和55年

与儀キャンパス
医学部校舎(旧保健
学部校舎)及び医学
部附属病院



昭和40年8月	佐藤栄作総理大臣が来沖し「琉球大学に医学部を設置する」との声明がなされた。
12月 December,1965	琉球政府内に琉球大学医学部設置構想委員会が設置された。 The Committee for Planning the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, was organized by the Government of the Ryukyu Islands.
昭和41年7月	第一次琉球大学医学部設置調査団が来沖し、「医療の基礎的条件を整備するための基本的態度と医療要員の要請に関する準備措置要領」が発表された。
11月 November,1966	第二次調査団が来沖し、次の4原則が確立された。 1.県立中部病院をインターン指導の教育病院とする。 2.琉球大学に保健学部を新設する。 3.那覇病院を改築し、教育病院とする。 4.公衆衛生の施策を強化する。 The Japanese Government investigation committee for establishment of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, visited Okinawa and made the following four announcements: 1. A postgraduate medical education program will be established at the Okinawa Chubu Hospital. 2. A Faculty of Health Sciences will be newly founded in the University of the Ryukyus. 3. Naha Hospital will be renovated for adapting the postgraduate medical education program. 4. Public health programs will be facilitated.
昭和42年1月	琉球政府は、行政主席の諮問機関として、琉球大学医学部設置準備委員会を設置し、教育機能と地域医療機能を併有する新病院建設基本構想を検討した。
5月	本土側施設整備専門部会と沖縄側専門委員会が新那覇病院建設計画について討議し、将来は、医学部教育病院としての機能をもち、当面は保健学部の実習も兼ねた総合病院とすることになった。
昭和43年5月 May,1968	琉球大学設置法の一部改正により保健学部(定員数60名)が設置された。 The Faculty of Health Sciences was founded by the Government of the Ryukyu Islands (Enrollment quota was 60 students), based on a royal revision of the act for incorporating the University of the Ryukyus.
昭和44年4月 April,1969	保健学部の第一期生59名が入学した。 Fifty-nine students enrolled for the first term in the Faculty of Health Sciences.

昭和45年6月	琉球大学設置法の一部改正により新那覇病院は琉球大学附属病院となった。
昭和47年5月 May,1972	本土復帰に伴い琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。 The Hospital of the University of the Ryukyus was reorganized into the Hospital of the Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, when the administration of Ryukyu was returned to Japan from the U.S. government.
昭和49年11月	地域医療部、救急部、理学療法部が随時設置され、総合病院として承認された。
昭和50年3月	臨床研修指定病院となった。
昭和52年4月 April,1977	琉球大学医学部創設準備室が設置された。 The Preparatory Section for the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus was launched.
12月	沖縄県解剖体確保推進協議会が結成された。
昭和53年10月	解剖体保存棟が保健学部敷地内に完成した。
昭和54年1月	医学部の昭和54年10月設置、昭和56年4月学生受け入れが内定した。
2月	沖縄県は献体組織“琉球大学でいご会”を結成した。
3月	沖縄県は、財団法人琉球大学医学部設置協力を設置した。 国立学校設置法の一部改正により昭和54年10月琉球大学医学部が設置された。(医学科31講座) また、昭和56年4月学生受け入れ(定員数医学科100名、保健学科60名)が決定した。
昭和55年8月	本学の関連教育病院(県立中部病院)について本学学長と沖縄県知事の間で協定を締結した。
10月	大学設置審議会大学設置分科会(浅田敏雄主査他4名)による医学科実施調査が行われた。
昭和56年3月	第1回医学部解剖体慰霊祭が解剖体保存棟前で行われた。

昭和56年4月 April,1981	保健学部が医学部保健学科に改組。保健学部附属病院は医学部附属病院となった。 The Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, and its Hospital were reorganized into the School of Health Sciences, Faculty of Medicine, and Hospital of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus.
4月	医学部医学科31講座のうち8講座(解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、寄生虫学、内科学第一、外科学第一、眼科学)が先行設置され、保健学科は4大講座(基礎保健学、保健管理学、保健医療学、保健技術学)に再編成された。
4月 April,1981	昭和56年度入学式(医学科100名、保健学科59名)が行われた。 Students (100 medical and 59 health sciences students) were enrolled for the first term at the newly established Faculty of Medicine.
10月	医学部開学記念式典並びに祝賀会が開催された。
昭和57年4月	医学科に7講座(解剖学第二、薬理学、法医学、内科学第二、小児科学、放射線医学、整形外科学)が設置され、計15講座となった。
10月	基礎講義実習棟、解剖法医棟及びポンプ室が竣工した。
12月	解剖学、生理学、生化学の講義及び実習が上原団地で開始された。
昭和58年2月	基礎研究棟及び保健学科棟が竣工した。
3月	保健学科及び医学科基礎系講座が上原団地へ移転した。福利棟(がじゅまる会館)が竣工した。
4月	医学科に7講座(生理学第二、細菌学、保健医学、皮膚科学、外科学第二、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学)が設置され、計22講座となった。
10月	R I ・動物実験施設が竣工した。
12月	臨床講義棟、附属病院、中央設備機械室が竣工した。
昭和59年1月	臨床研究棟が竣工した。

昭和59年3月	授乳施設、管理棟、附属図書館医学部分館、高エネルギー・高気圧治療施設棟が竣工した。
4月	医学科に6講座(病理学第二、ウイルス学、内科学第三、脳神経外科学、泌尿器科学、麻酔科学)が設置され、計28講座となった。医学部及び附属病院の事務部が一元化され医学部事務部となったことに伴い、事務組織が改編され事務部長、事務部次長、4課制(総務課、管理課、学務課、医事課)となった。
7月	7月1日～10月14日、新病院移転・開院準備のため休診となった。 7月1日～8月2日、附属病院が上原団地へ移転した。医学部施設竣工並びに医学部附属病院の開院記念式典が挙行された。
10月	医学部附属病院(400床)の完成に伴い、診療を再開した。
昭和60年3月	体育館、多目的運動場が竣工した。
4月	医学科に3講座(生化学第二、精神神経科学、歯科口腔外科学)が設置され、計31講座となった。附属病院に第三内科が新設され、計17診療科となった。附属病院の病床数が200床増床され、計600床となった。
6～7月	附属病院の200床増床に伴い、病棟移転が行われた。
昭和61年4月 April,1986	琉球大学大学院保健学研究科(保健学専攻、修士課程)が設置された。(定員10名) The Graduate School of Health Sciences (Master's degree program) was founded. (Enrollment quota was 10 students)
4月	保健学科の入学定員が臨時的に5名増員され、計65名となった。附属病院に高気圧治療部が設置された。
昭和62年3月	R I 診療棟が竣工した。

昭和57年

建設中の医学部及び
附属病院
(西原町上原)



昭和58年

医学部及び附属病院の
全景
(西原町上原)



平成6年

旧与儀キャンパス跡の
記念碑建立
(那覇市与儀)



昭和62年4月	琉球大学大学院医学研究科(博士課程)(形態機能系専攻、生体制御系専攻、環境生態系専攻)が設置された。(定員数30名)
April,1987	The Graduate School of Medicine (Doctoral degree program) was founded. (Enrollment quota was 30 students)
7月	タイ国のチェンマイ大学と学術交流協定を締結した。
昭和63年4月	附属地域医療研究センターが設置された。(10年期限)
April,1988	The Research Center of Comprehensive Medicine was founded in this decade.
平成元年3月	リニアック診療施設棟が竣工した。
5月	附属病院に輸血部が設置された。
平成2年3月	附属地域医療研究センター棟が竣工した。
6月	医学科に臨床検査医学講座が新設され、計32講座となった。
11月	医学部開学10周年記念式典が行われた。
平成3年3月	MRI-CT装置棟が竣工した。 精神病棟(40床)が承認された。(一般病床から精神病棟へ) 中華人民共和国の中山医科大学と学術交流協定を締結した。 附属実験実習機器センターが設置された。
March,1991	The Research Laboratory Center was founded.
4月	医学部医学科に3学期制が導入された。
平成5年4月	附属動物実験施設が設置された。
April,1993	Institute for Animal Research was founded.
5月	英国医学協会(GMC)より海外有資格医師の限定登録の認可を受けた。
12月	高嶺徳明顕彰碑が建立された。
平成6年8月	特定機能病院として承認された。
平成7年4月	附属病院に血液浄化療法部が設置された。
平成9年4月	附属病院に医療情報部が設置された。

平成10年3月	附属地域医療研究センターが廃止された。
4月	附属沖縄・アジア医学研究センターが設置された。
April,1998	The Okinawa-Asia Research Center of Medical Sciences was founded.
平成11年4月	附属病院に周産母子センターが設置された。 医学科の入学定員が95名となった。
平成12年4月	附属病院に病理部が設置された。 保健学科の入学定員の臨時募集が廃止され、計60名となった。
平成13年4月	医学科に臨床薬理学講座が新設され、計33講座となった。 附属病院に光学医療診療部が設置された。 医学科に第3年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名) 中国の広西医科大学と部局間交流協定を締結した。
平成14年4月	医学科に救急医学講座が新設され、計34講座となった。
平成15年3月	附属沖縄・アジア医学研究センターが廃止された。 理学療法部が廃止された。
4月	医学科は34小講座が6大講座(形態機能医科学、地域環境医科学、病態解析医科学、生体制御医科学、器官病態医科学、高次機能医科学)に、保健学科は4大講座が6講座(基礎看護学、成人・老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学)にそれぞれ再編成された。 大学院医学研究科の3専攻が改組され医科学専攻(先進情報医科学領域、機能再生医科学領域、環境長寿医科学領域)及び感染制御医科学専攻(独立専攻)(感染分子生物学講座、分子感染制御学講座、感染病態制御学講座)が設置された。 リハビリテーション部が設置された。
平成16年4月	琉球大学は国立大学から国立大学法人へとなった。 大学院医学研究科修士課程医科学専攻が設置された。
April,2004	The University of the Ryukyus was reorganized by the National University Corporation from the National Universities. The Graduate School of Medicine (Master's degree program) was founded.
平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。

平成18年2月	リハビリテーションセンター(作業療法棟)が竣工した。
10月	大韓民国の延世大学校と部局間国際交流協定を締結した。 モンゴルのモンゴル保健総合大学と部局間国際交流協定を締結した。 南アフリカ共和国のケープタウン大学と部局間国際交流協定を締結した。
平成19年3月	附属病院がエイズ診療拠点病院に指定された。
4月	大学院保健学研究科が改編され、修士課程が博士前期課程に、博士後期課程が新たに設置された。
April,2007	The Graduate School of Health Sciences (Doctoral degree program) was founded.
平成20年2月	附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定された。
4月	事務組織が改編され、医学部事務部、附属病院事務部〔事務部長、課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課)〕となった。
平成21年4月	医学科に第2年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)医学科の入学定員が7名増員され(内2名は9年期限)、計102名となった。
11月	附属病院が沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に指定された。
平成22年4月	大学院医学研究科が大学院講座化(部局化)され、医科学専攻(3コース、33講座)、感染制御医科学専攻(1コース、8講座)に再編された。 医学科の第3年次特別編入が廃止された。 医学科の入学定員が5名増員され、計107名となった。 附属病院に骨髓移植センターの設置が認可された。
平成23年1月	附属病院に寄附講座(地域医療システム学講座、地域医療教育開発講座)が設置された。
4月	事務組織が改編され、事務部長5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。
12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟が竣工した。
平成24年3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンターが竣工した。
4月	病理診断科が設置された。
平成25年2月	機能画像診断センターが竣工した。

平成26年2月	台湾の台北医学大学と部局間交流協定を締結した。
3月	フィリピン共和国のフィリピン大学公衆衛生校と部局間交流協定を締結した。
4月	大学院医学研究科博士課程の2専攻を改組し、医学専攻が設置された。(定員数30名)
10月	ラオス人民民主共和国のラオス保健科学大学と部局間交流協定を締結した。
11月	救急災害医療棟が竣工した。
12月	沖縄県地域医療支援センターが設置された。
平成27年2月	附属病院に救急科が設置された。
3月	附属病院に形成外科が設置された。
4月	医学科の入学定員が5名増員され、計112人となった。 大学院医学研究科にウイルス学講座、臨床研究教育管理学講座が新設され、計42講座となった。 再生医療研究センターが設置された。 附属病院の検査部と輸血部が統合され、検査・輸血部が設置された。
平成28年4月	附属病院にリハビリテーション科が設置された。
8月	臨床工学室が設置された。
10月	在宅医療推進センターが設置された。
平成29年9月	超音波センターが設置された。 シンガポール共和国の南洋理工大学と部局間交流協定を締結した。
平成30年4月	形成外科学講座が新設された。 インドネシア共和国のアイランガ大学と部局間交流協定を締結した。 大韓民国の高麗大学と部局間交流協定を締結した。
11月	医学教育分野別認証評価認定を受けた。
令和2年4月	事務組織が改編され、上原キャンパス事務部(事務部長、総務課、企画課、管理課、医事課、学務課)となった。 先進医療創成科学講座が新設された。 琉球大学医学部附属病院から琉球大学病院に改称。
令和3年9月	インドネシア共和国のマタラム大学と部局間交流協定を締結した。

保健学部長

松林久吉（初代保健学部長）	昭和 45年 9月
松崎吉彦	昭和 48年 9月
西山 勇	昭和 50年 9月
杉浦正輝	昭和 52年 9月
照屋寛善	昭和 54年 9月

医学部長

大鶴正満（初代医学部長）	昭和 54年 10月
永盛 肇	昭和 62年 4月
大澤 炯	平成 3年 4月
茨木邦夫	平成 5年 4月
平山清武	平成 9年 4月
柊山幸志郎	平成 10年 4月
岩政輝男	平成 12年 4月
坂梨又郎	平成 16年 4月
佐藤良也	平成 20年 4月
須加原一博	平成 23年 4月
松下正之	平成 25年 4月
石田 肇	平成 29年 4月
筒井正人	令和 3年 4月

大学院保健学研究科長

大鶴正満（初代大学院保健学研究科長）	昭和 61年 4月
竹中 静 廣	昭和 62年 4月
石津 宏	平成 元年 4月
竹中 静 廣	平成 3年 4月
宮城 一 郎	平成 4年 4月
普天間 弘	平成 6年 4月
崎原盛造	平成 7年 4月
石津 宏	平成 10年 4月
河野伸造	平成 12年 4月
外間登美子	平成 16年 4月
高倉 実	平成 22年 4月
福島卓也	平成 26年 4月
小林 潤	令和 2年 4月
平井 到	令和 6年 4月

大学院医学研究科長

佐藤良也（初代大学院医学研究科長）	平成 22年 4月
須加原一博	平成 23年 4月
松下正之	平成 25年 4月
石田 肇	平成 29年 4月
筒井正人	令和 3年 4月

琉球大学医学部は、日本で最も新しい国立大学医学部として1981年（昭和56年）に設立されました。医学部には医学科と保健学科が、大学院には医学研究科（修士・博士課程）と保健学研究科（博士前期・後期課程）が置かれています。医学科は、2010年（平成22年）に大学院講座化されました。

琉球大学医学部と琉球大学病院は、2025年（令和7年）、宜野湾市西普天間地区に移転する予定です。移転の目的は、新キャンパスに「沖縄健康医療拠点」を形成し、沖縄県の健康長寿の復活と産業振興を図ることです。①高度医療・研究機能の拡充、②地域医療水準の向上、③国際研究交流、医療人材育成の3つを柱とした構想が国主導で進められています。

教育



本医学部では、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、近年の医学・医療の急速な進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師、保健医療従事者、および研究者を育成しています。また、島嶼県沖縄における地域完結型医療に貢献出来る人材を養成するために離島やへき地における病院実習を科目に設け、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる人材を養成するために海外で臨床実習や医科学研究を行えるようにしています。このような本医学科の医学教育プログラムは、2018年、日本医学教育評価機構（JACME）から評価基準に適合していると認定されました。大学院では、近年の医学・保健学のダイナミックな変化に対応できる次世代を担う優れた人材を育成しています。

研究

研究面では、我が国唯一の亜熱帯気候であり島嶼環境である沖縄県の地域特性を踏まえて、唯一無二の特色ある研究を推進しています。具体的には、亜熱帯環境下における感染症・寄生虫学研究、沖縄の健康長寿の復興を目指した医学研究、沖縄の生物資源を活用した創薬研究、沖縄に特有の希少疾患の研究、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学研究、アジアを主とした国際保健学研究などを行っています。これらの研究を支援する組織として、2015年に再生医療研究センターが、2016年に先端医学研究センターと沖縄バイオインフォメーションバンクが医学部内に設立されました。



社会貢献・国際交流



本学部と本研究科は、医師、保健医療従事者、および研究者を育成することで医学・医療に貢献しています。医学科では2009年から沖縄県の修学資金制度のもとで地域枠の学生を受け入れており、現在、地域枠の第1期生は卒後10年目の医師になっていて、ようやく沖縄県の地域医療への本格的な貢献が始まったところです。本医学部は、国際性豊かな医学部として発展させることを基本目的としており、本医学部と本研究科は、国際研究交流を積極的に推進しています。医学科の臨床実習では、北米、欧州、アジアの医学部と提携して学生を相互に派遣しています。大学院では、大学院生に海外での研究の機会を与えたり、外国人を大学院生として受け入れたりしています。また、最近、

保健学研究科に、JICAの留学生を対象とした英語コースを新設しました。

❖ 医学教育企画室

医学教育の質の向上を図ることが医学教育企画室（MEPO: Medical Education Planning Office）の最大のミッションです。医師は、医学の知識と確かな技術を基盤として、患者中心のケア、チーム医療の推進、継続的な学習と自己研鑽が求められています。MEPO は、そのような時代の要請に沿った医学教育を提供するため、カリキュラムの改善や評価、学生主導の学習法の推進、臨床実習の支援、全国的な共用試験の支援を行っております。具体的には、CBT(コンピューターを用いた医学知識に関する試験) や OSCE (臨床技能と能力を評価するための試験) などの試験の支援、多職種連携のためのシミュレーション

演習、将来のキャリアを考える医学概論、患者・家族と接する実習、離島地域病院実習、Team-Based Learning (チームでの学習を重視した教育法の一つ) 形式での学習、参加型臨床実習の調整、医学教育に関する教員研修などです。卒業試験に代わる医師国家試験形式の総合試験の実施にも関わっております。

また令和 5 年度からは、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業も担当しております。専任教員 3 名と医療の各領域を代表する 38 名の企画室教員（兼任）が医学生と向き合い、医師や医療系専門職の育成に努めております。

❖ 医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改革力と生涯学習力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症など沖縄の地域に根ざした問題、近年著しく進歩している再生・再建分野の研究、ゲノム解析とその医療への応用等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986 年に国立大学 2 番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優れた人材を

輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007 年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。

本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。また、がん看護 専門看護師養成コース、学校保健ヘルスプロモーションコース、Okinawa Global Health Science Program をもち、専門性の高い看護師養成に力を入れています。

❖ 長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。

学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療が出来るよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域病院や保

健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点を養っています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を抱える東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。



公衆衛生看護実習 公民館で学生の健康教育

❖ 臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院では「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念に基づき、“高い人間性”を持ち患者本位の質の高い医療を提供できる医療人の養成、“高い専門性”や“豊富な知識”に基づく総合力を発揮し先進医療の開発・推進を担う人材の養成に努めています。

沖縄県の医療者育成は全国でも非常に高い評価を受けており、琉球大学病院は其中で中心的な役割を果たしています。医師育成において、医学部学生に対し医学教育企画室が臨床実習やクリニカルクラークシップの実践を、初期研修医に対し臨床研修センターが RyuMIC 初期臨床研修プログラムの運営を、そして専門医を目指す専攻医に対しキャリア形成支援センターが専門研修プログラムの運用、FD 企画や復職支援をおこなっています。

琉球大学病院では、地域医療に配慮した多彩な研修プログラムを設定し、熱意ある指導者のもとで屋根瓦式教育体制がとられています。また、全国有数のシミュレーションセンターであるちゅら Sim を用いた研修も教育の質の向上に寄与しています。医師に限らず、看護師、薬剤師、検査・放射線技師、リハビリセラピスト、臨床工学技士など、多くの医療職種に対する教育・研修をキャリア形成支援センターがサポートし計画的に実施しています。これらの取り組みによりチーム医療での質の高い医療実践を目指します。特に看護師特定行為研修については力を入れており、これまでに多くの修了生を輩出しています。これらの教育は、人材育成だけに留まらず、地域医療の充実、臨床研究の推進、さらに「医療の安全のさらなる向上」に大きく寄与しています。

❖ アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学 2 領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この 2 つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また、保健学研究科の特別プログラム（Okinawa Global Health Science Program）は、JICA（国際協力機構）開発大学院

連携プログラムにも登録されており、アジア、太平洋、アフリカ各国から多数の留学生を受け入れています。この受け入れはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進していく中で実現したものです。留学生だけでなく日本人大学院生の特別プログラムへの積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修了生は、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



❖ シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

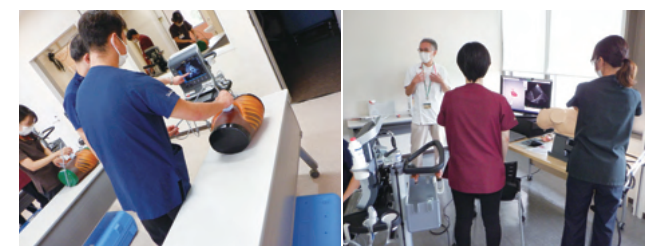
おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成 24 年 3 月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に技術に習熟する、発生頻度の低い突発事態へのチーム対応を準備しておくといったトレーニングを行うことができます。そうした訓練を通して沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。学部教育においても、学生が実習に入る前の学習や振り返り等で活用しています。

そのほかに、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けの教育企画シリーズ、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高校生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内の医療教育機関および医療機関に幅

広くご利用いただいています。

年間およそ延べ 1 万人以上の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。

各種情報については <http://okinawa-clinical-sim.org/> をご参照ください。



研究における特色①

RNA修飾システムの異常による疾患の発症メカニズムを探究する



大学院医学研究科

鈴木 健夫 医化学講座 教授

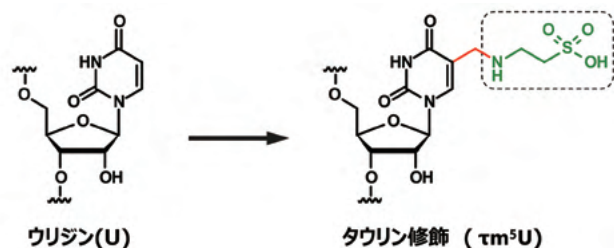


図1 タウリン修飾の形成と化学構造(右) タウリン部分を棒で示した。

1. RNA 修飾とは？

細胞内で転写された RNA はプロセッシングと呼ばれる様々な加工の段階を経て、機能的に成熟します。RNA 修飾とは、転写された RNA 分子の特定の部位が、酵素的に化学構造を変化させる現象を指します。RNA 修飾は、スプライシングやポリ A 配列の付加・末端配列の切除といった、RNA の長さを変化させるプロセッシングと異なり、RNA の局所的な質的变化を引き起こすことで、転写直後の新生 RNA にはない物理化学的性質を付与する意味があります。

2. RNA 修飾異常と疾患

ミトコンドリア病はミトコンドリアの機能異常を伴う重篤な疾患であり、様々な臓器において多様な臨床症状がみられる特徴を持ちます。その中でもミトコンドリア脳筋症・乳酸アシドーシス・脳卒中様発作 (mitochondrial myopathy, encephalopathy, lactic acidosis and stroke-like episodes:

MELAS) について、ミトコンドリアゲノム内の tRNA 遺伝子に生じた点変異 (A3243G など) との相関が知られています。私たちはミトコンドリア tRNA の解析から、タウリンを含む新しい RNA 修飾である 5- タウリノメチルウリジン (以降、タウリン修飾) (図 1) を発見し、構造を決定してきました。そして MELAS 点変異を持つミトコンドリア tRNA ではこのタウリン修飾が著しく減少し、未修飾のままであることを発見してきました (図 2)。後に、タウリン修飾の欠損が原因で変異 tRNA が遺伝子を正しく読み取る機能を失っていることが証明されたことから、タウリン修飾の異常は疾患の直接的な要因となることが判明しました。

さらに私たちはタウリン修飾がどのように作られるかを明らかにし、タウリンの摂取や欠乏にตอบสนองしてタウリン修飾の量や修飾構造そのものが調節されるという現象を発見しました (図 2)。

3. 拡大する修飾ワールド

転写後修飾による RNA の質的な変化を通じて遺伝子発現が制御される、という考え方は「エピトランスクリプトミクス」と呼ばれ、普及しつつあります。ヒトではこれまでに 50 種類以上の RNA 修飾構造が同定されており、私たちは、RNA 修飾システムの破綻が要因となる一連の疾患「RNA 修飾病」の発症メカニズムの理解に加え、診断 / 予防 / 治療 / 創薬につながる研究の展開を目指しています。

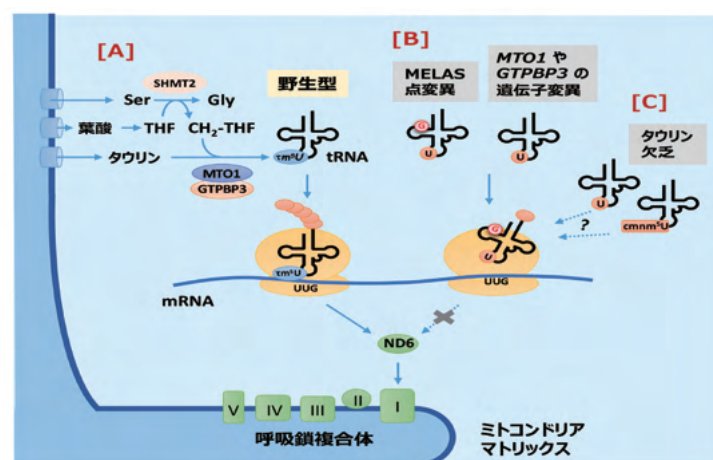


図 2 [A] タウリン修飾の生合成。[B] MELAS の点変異 tRNA や修飾遺伝子変異でタウリン修飾が作られなくなり、特定の遺伝子配列 (UUG) を読み取れなくなる。[C] 環境中のタウリンによって修飾の状態や構造も様々に変化する。

研究における特色②

がん診断時からの緩和ケアの充実を目指して～研究から教育へ～



保健学科

照屋 典子 成人・老年看護学講座 教授

がんは我が国の死因第 1 位であり、日本人の 2 人に 1 人がかかるとされています。国のがん対策基本法では、診断時から緩和ケア (心身の苦痛 / つらさを和らげるケア) を適切に提供し、がん患者の療養生活の質の維持向上を図ることが明記されています。しかし、「心身の苦痛を和らげる支援は十分」と回答したがん患者は 43% に留まり、また、がん患者では診断後の期間が短いほど自殺率が高いことから外来における緩和ケアの充実が求められています。

当分野では令和 4 ～ 5 年度にわたって、外来における緩和ケア充実に向けた課題の検討をテーマとした卒業研究を実施しました。令和 4 年度は県内がん診療病院 8 施設の外来看護管理者、緩和ケア担当看護師 (18 名) を対象として、緩和ケア実践とその関連要因の抽出を目的としたインタビュー調査を行いました。これらの結果をもとに、令和 5 年度はがん診療病院 (15 施設) で患者家族と直接関わる外来看護師 (178 名) を対象とした質問紙調査を行いました。その結果、5 ～ 7 割の看護師が医師 - 看護師間の連携が不足している場合、告知の同席や告知後の情緒的サポートが難しいと感じ、患者ケアにおいては 4 ～ 6 割がスピリチュアルや精神面のアセスメントに困難を感じていることがわかりました (図 1)。

とくに【告知の同席・情緒的サポート】には告知同席経験や日頃の緩和ケア実践が、また【患者アセスメント・緩和ケアの情報提供】には研修経験、緩和ケアの自信等が有意に関連し、これら実践の困難には患者家族、医療者間コミュニケーションの困難感が有意に関連していました (図 2)。

以上のことから、外来における緩和ケアの充実に向けて、看護師のコミュニケーションスキル向上を図り、患者家族のサポート経験を重ねながら緩和ケアへの自信が高められるような教育的支援の必要性が示唆されました。

当分野は毎年「緩和ケアエキスパートナース養成コース」を開講して看護師のスキルアップを支援し、大学院では「がん看護専門看護師」養成を行い、緩和ケア・がん看護の質向上を目指しています。

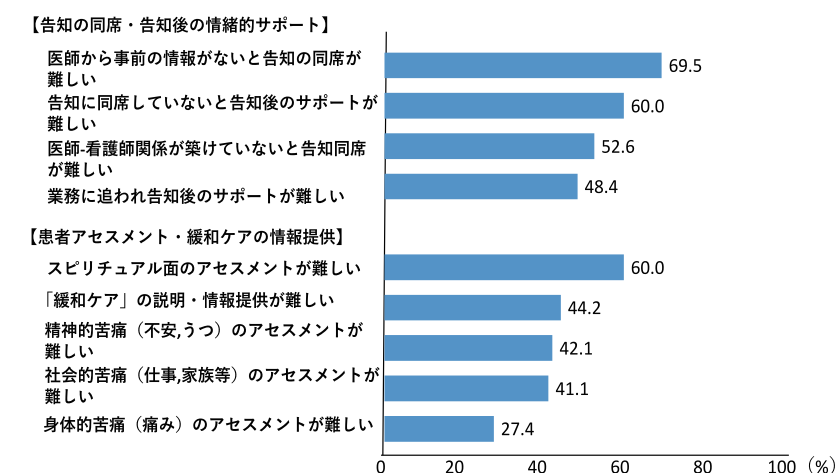


図 1 外来での緩和ケア実践において困難を感じている看護師の割合 (n=95)

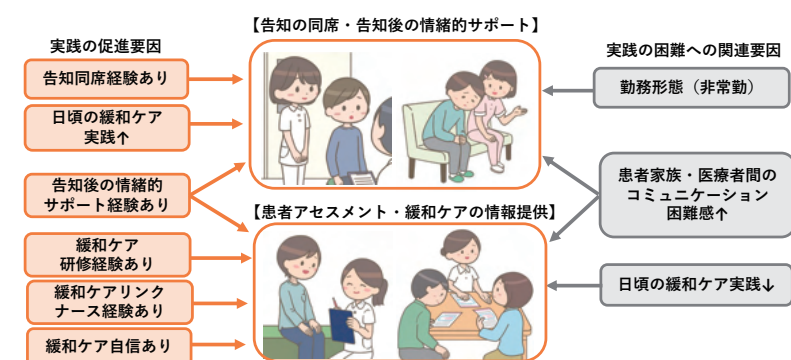


図 2 外来における緩和ケア実践 / 困難の関連要因に関する重回帰分析の結果 (n=95)

研究における特色③

人工知能による心エコー図法を用いた肺高血圧症診断の精緻化



大学院医学研究科

楠瀬 賢也 循環器・腎臓・神経内科学講座 教授

研究の背景

近年、肺高血圧症に対する治療薬(肺血管拡張薬)および治療法(カテーテルバルーンによる肺動脈拡張術)の進歩により、肺高血圧症は早期診断・早期治療介入することによる予後の改善が期待できる疾患となり、正確な診断の臨床的重要性はさらに増しています。

医療現場で一般的に利用され、患者への負担が少ない心エコー図検査は、被曝が無く非侵襲的であり、ポータブル機器もあることから離島での利用も可能な検査機器です。しかし、心エコー図の解釈は複雑で主観的であり、医療施設間での専門知識に依存しているため、より客観的な手法が期待されています。我々の研究グループでは臨床指標および心エコー図検査指標に人工知能(AI)の一種である機械学習を用いることで、PHのタイプをより明確に区別できるかどうかを検討しました。

研究の方法

885人の患者データを用いて、肺高血圧の非侵襲的診断

を目指すために機械学習によるAIモデルを開発しました。このモデルは24の臨床変数を用い、患者を肺高血圧なし、左心不全を伴う肺高血圧症、左心不全を伴わない肺高血圧症の3つのグループに分類できるかを試みました(図1)。

研究の結果

機械学習によるAIモデルは、肺高血圧を肺高血圧なし・左心不全を伴う肺高血圧症・左心不全を伴わない肺高血圧症の3つのグループを効果的に分類することに成功しました。このモデルは、従来のガイドラインに基づく評価方法と比較して、高い精度でこれらの肺高血圧症サブタイプを識別しました(マクロ平均分類精度が52%から60%に向上)。臨床データと心エコー図データを組み合わせることで、非侵襲的かつ迅速な診断が可能となることが示されました(図2)。これにより、心エコー図のデータを用いて、より迅速かつ正確に肺高血圧症のサブタイプを識別することが可能になります。

図1

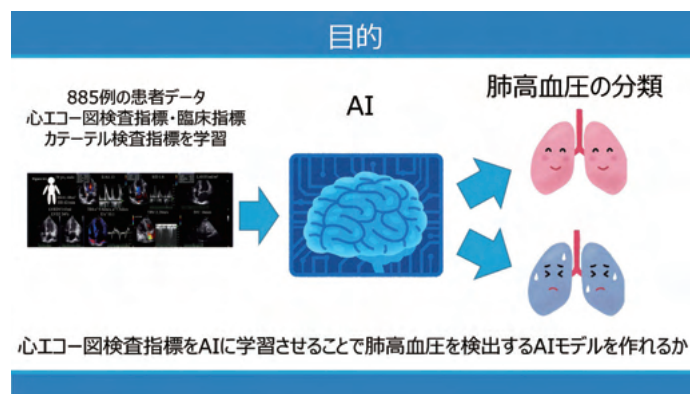
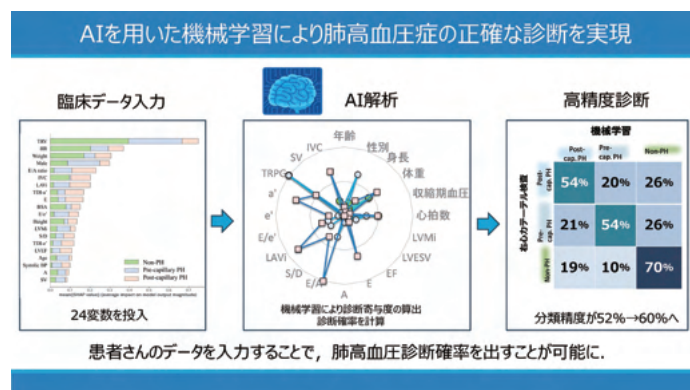


図2



研究における特色④

私の夢「沖縄県のがん罹患率と死亡率を下げる」



大学院医学研究科

関根 正幸 女性・生殖医学講座 教授

2023年10月より琉球大学女性・生殖医学講座(産婦人科)にて、教育、研究、診療を担当しています。私は1994年に新潟大学医学部を卒業し大学院に進学しましたが、そこで「遺伝性乳癌卵巣癌」のゲノム研究を始めました。当時は「遺伝性の癌」という概念がまだ定着していない頃で、「癌は遺伝するもの」ということは皆が何となく認識していたものの、具体的にどの癌が、どのくらいのリスクで遺伝するのかはまだclearになっていない時代でした。そこからポストゲノム時代が到来し、アンジェリーナ・ジョリーの告白があり、「遺伝性乳癌卵巣癌」の患者さんを対象に新しい分子標的薬(PARP阻害薬)が開発され、予防手術が保険でできるようになり、一躍「遺伝性腫瘍」が脚光を浴びることになりました(図1)。私はこの「遺伝性乳癌卵巣癌」をきっかけとして、がんゲノム医療の研究、臨床を推進してきましたが、沖縄でもその活動に力を入れています。

また、沖縄県はヒトパピローマウイルス(HPV)感染率が高いことから、子宮頸がんの罹患率と死亡率も際だって高い状

況になっています(図2)。子宮頸がんを撲滅するためには、ワクチンと検診受診率の向上が必須であり(図3)、その活動も継続しています。このゲノム医療と予防医療を充実させることができれば、沖縄県のがん罹患率と死亡率を下げるができるものと信じています。

受験生の皆さん!琉球大学では、日々の臨床から芽生えた(患者さんから学んだ)クリニカルクエスト(知的好奇心)を探究できる学術的指導が可能です。さらにハンズオンセミナーなど人と人とのつながりを重視した体験型実習が充実しており、地域医療に加えて先進的なサブスペシャリティ研修も可能です。琉球大学医学部と病院は、2025年1月に宜野湾市の新キャンパスに移転します。新キャンパスは華やかな西海岸に近く、新たな医療拠点として沖縄の発展に必ずや貢献するはずです。医学を志す若い力を、存分に発揮できるフィールドだと思います。ぜひ琉球大学と一緒に学んでみませんか?

図1 遺伝性乳癌卵巣癌に関する研究の流れ



図2 HPV研究：沖縄での重要性

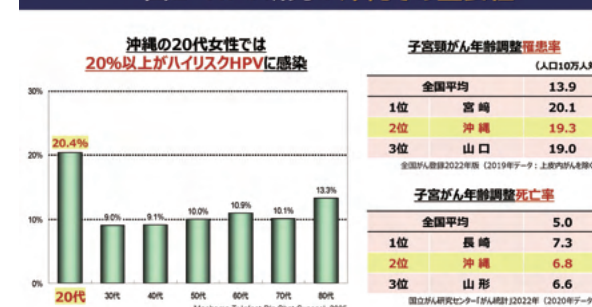
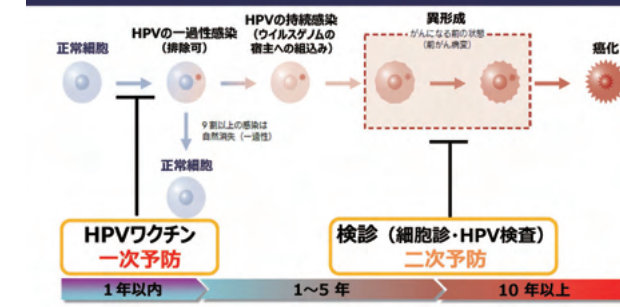


図3 子宮頸がんの発がん過程



教育における特色①

適切な薬を適切に処方するために 臨床薬理学での学び

大学院医学研究科

植田 真一郎 臨床薬理学講座 教授

医師のほとんどはその専門領域によらず薬を処方します。臨床薬理学はこの「処方」を適切に行うための医学です。医学部では「薬理学」があり、ここでは薬の効く仕組みや体の反応などを学びます。「臨床薬理学」では習った薬をどのような形で処方すれば最も患者さんの困っていることを良くできるか、を学ぶのです。

医師は薬の処方合法的には可能ですがなんでも処方して良いわけではありません。動物実験で効果があるかもしれない！となった薬をそのまま処方することはできません。「処方できる」薬であるためにはヒトでの有効性と安全性を評価する研究が必要なのです。

現代の薬の有効性や安全性を評価する仕組みができたのは1948年で結核患者さんを「ストレプトマイシン」という薬を投与する群と安静だけの群にくじ引きのような形で割り付け、その効果を比較する「ランダム化比較試験」という研究のデザインが初めて用いられました。(図1) これ以降この方法は標準的になり、その後の医学に大きな貢献をします。「臨床薬理学」ではどのように証明することが適切か、ヒトにおける研究のあり方についても学びます。

ある薬が適切な研究で有効で安全とされても、実際に使っているうちに問題が生じてくることがあります。最近では高齢化が進み、患者さんによってはたくさんの医師からたくさんの薬を処方されていることがあるので、薬が他の薬の効果にどのように影響するかや、可能性のある副作用、

服用を継続することによるメリットデメリットなどを考えなければなりません(図2)。高血圧の薬は血圧を下げ、脳卒中の危険を減らしますが、一方で高齢者の転倒などとの関連が指摘されることもありますし、ある不整脈の薬はそれをやめた後も数ヶ月他の薬の作用を強めることも報告されています。薬局で処方箋なしに購入できる痛み止めが患者さんによっては腎臓の機能を悪くする可能性もあります。このように薬理学で勉強した薬理作用を踏まえながら色々な薬剤の臨床的な有効性、潜在するリスク、飲み合わせなどの問題を勉強して行く必要があるのです。

図1

ランダム化臨床試験によるストレプトマイシンの有効性の証明

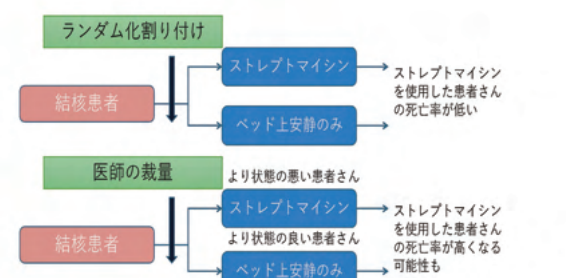


図3

薬は体に吸収され、体内に分布して効果を発現し、代謝され、排泄されます。このどこかに問題があると薬が効かなかったり、副作用が出たりすることがあります。これを臨床薬理学では学びます。

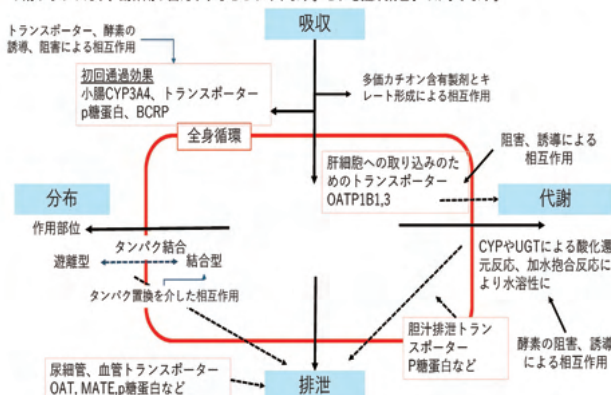
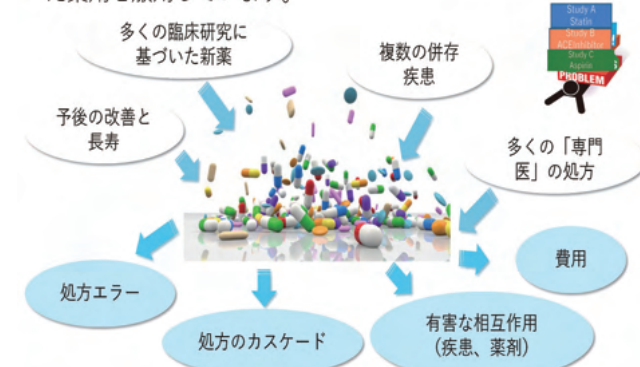


図2

患者さんの多くは複数の疾患を持ち、それぞれに処方された薬剤を服用しています。



教育における特色②

島医者・山医者・里医者育成プロジェクト

医学部

金城 紀与史 医学教育企画室(ポストコロナ事業)特命教授

沖縄県には離島が多数あり、海で隔てられています。医療者には守備範囲の広さと緊急性の判断力が求められます。

1. 総合診療能力

離島や僻地の医療機関では大病院のように色々な専門科が必ずしも揃わないこともあります。小規模な離島では診療所に医師一人、看護師一人、事務員一人という体制のところもあります。患者さんの話を聞いて診断をつけ、自分で対応できる範疇であれば治療し、専門家に紹介したほうがよい場合には適切に紹介する必要があります。陸続きでない分、まず最初にみるという、守備範囲の広さが期待されるのです。

2. 緊急性の判断

場合によっては、重症な患者さんを緊急で搬送しなければいけないこともあります。CT検査などが無い状況でも、患者さんの状態を見て判断します。病歴と診察(たとえば血圧や脈拍、意識状態など)が判断材料として最も重要であり、基本的な診察能力をきちんと身につける必要があります。

3. 他職種との協働

地域医療の現場では、様々な人々が地域の情報を教えてくれます。その地域のエキスパートである彼らと協働します。訪問診療や、学校や高齢者施設に出向いて健康増進や予防について働きかけるのも重要な仕事です。顔の見えるコミュニティで、個々の患者さんの生活に密着した医療を実践することができるのが地域医療の醍醐味です。

4. 琉球大学の地域医療教育

令和4年度から琉球大学は文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の補助を受けて新しいカリキュラムが始まりました。地域医療コースの学生は、1~3年生で地域医療に求められる総合力、多職種との協働をテーマとした授業があります。高学年になると、実際に北部や離島で臨床実習することで、地域医療の実践を学びます。佐賀大学とも連携して教育を充実させます。

「島医者・山医者・里医者」の魅力を伝えることで、沖縄県の地域医療に貢献する次世代の若者が増えることを期待しています。



身体所見道場



プライマリケア演習



ハワイ大Berg先生シミュレーションWS

社会貢献

沖縄県の防災力向上のための地域社会との連携

保健学科

関口 浩至 成人・老年看護学講座 准教授

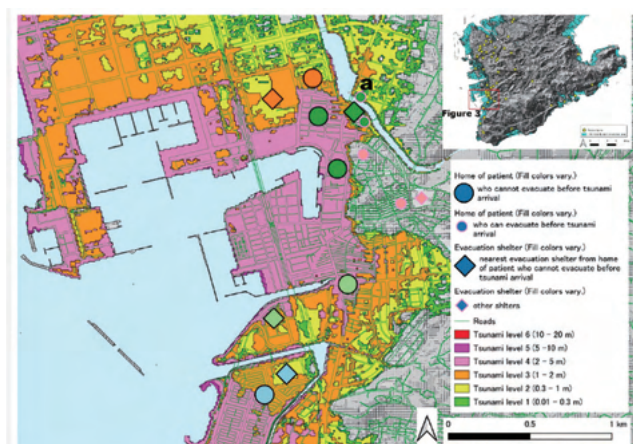
沖縄県は地震など台風以外の災害は少ないイメージですが、2022 年、政府の地震調査委員会は今後 30 年以内に沖縄・南西諸島周辺の琉球海溝を震源とするマグニチュード 7 クラスの海底地震が発生する確率を 90% 以上と予測しています。そのような中、今年 4 月 3 日の台湾東部を震源とする地震とそれに伴う沖縄県地方への津波警報発令は、皆さんの記憶に新しいと思います。津波災害の対策は強固な堤防や津波避難ビルの構築などハード面と、実際に逃げる人々がどのように安全に避難し、避難所で健康に避難生活を過ごすかという人の身体やその心に関するソフト面の取り組みが必要です。保健学研究科・保健学科では特にこのソフト面、とりわけ災害時に支援が必要な災害時要配慮者と呼ばれる人々（高齢者、障がいをもつ人、妊婦さん、子ども、外国人など）の避難行動や避難所での健康管理などの調査や研究、社会実践活動に取り組んでいます。

調査研究では、呼吸器疾患など肺に障がいをもつ方々が自宅からどれくらいの距離を避難できるのか、6 分間歩行テストという病院で行う検査に基づき地理情報システム（GIS：Geographic Information System）を利用して明らかにしました。さらに現在、大学院生が高い建物への垂直避難を組み込んだ、災害時要配慮者の方々のための新たな避難方法の開発に取り組んでいます。

当教室では教員が防災士の資格を取得し、沖縄県内各地

域で行われている防災訓練のお手伝いにも参加しています。また、学生も参加できる「保健学科防災ボランティア同好会」を結成し、公民館などを訪問して地域のお手伝いができるようにすすめています。

沖縄本島だけでなく、離島地域の中学校と協力して、中学生が地域の防災リーダーとして活躍できるようにリモートや対面授業を利用した「防災授業」を開講するなど地域に根差した実践活動を行っています。



GIS研究



防災士活動



防災授業（離島中学校）

国際交流

アジア・アフリカ・大洋州の学生との交流や海外で研究をしませんか

保健学科

野中 大輔 母子看護学講座 准教授

医学部保健学科とチェンマイ大学看護学部との間では、学生間の交流が 20 年以上続いています。研究・教育の交流・協働強化を目的に、チェンマイ大学看護学部との交流協定を締結しました。2019 年までほぼ毎年、7 月にチェンマイ大学の学生が琉球大学を訪問し、9 月に琉球大学の学生がチェンマイ大学を訪問していました。新型コロナウイルス感染症拡大により、対面による交流は一時中断しましたが、来年から再開の見込みです。

琉球大学医学部とラオス国保健医療部門との交流は 30 年以上続いています。医学部・医学研究科・琉球大学病院から多数の専門家がラオスを訪れ、公衆衛生プロジェクト、中核病院での技術指導、チャリティー・オペレーションの実施、学校地域歯科保健プロジェクトなどを現地のカウンターパートと共に実施してきました。2023 年から、寄生虫疾患対策のために、ラオス国立パスツール研究所と共同研究を進めています。同年に、JICA 草の根・貧困僻地郡における女性のエンパワメントによる母子保健強化プロジェクトを開始しました。2024 年には、医学部生がラオスを訪れ、プロジェクトの現地視察や現地の医療系学生と交流しました。

保健学研究科は 2021 年に JICA 開発大学院連携に登録され、アジア、アフリカ、大洋州からの留学生を多数受けれています。また、世界から保健医療実務者が集まってくる JICA 課題別研修に対して、保健学研究科は技術協力をしています。留学生と交流したり JICA 課題別研修に参加したりすることで、沖縄にいながら世界各国の保健医療事情や文

化について学ぶことができます。保健学研究科大学院生の中には、修士研究や博士研究のために海外で調査をおこなう学生もいます。医学生の中でも、卒業研究のためにラオスやインドネシアなどの海外で調査をおこなう学生もいます。



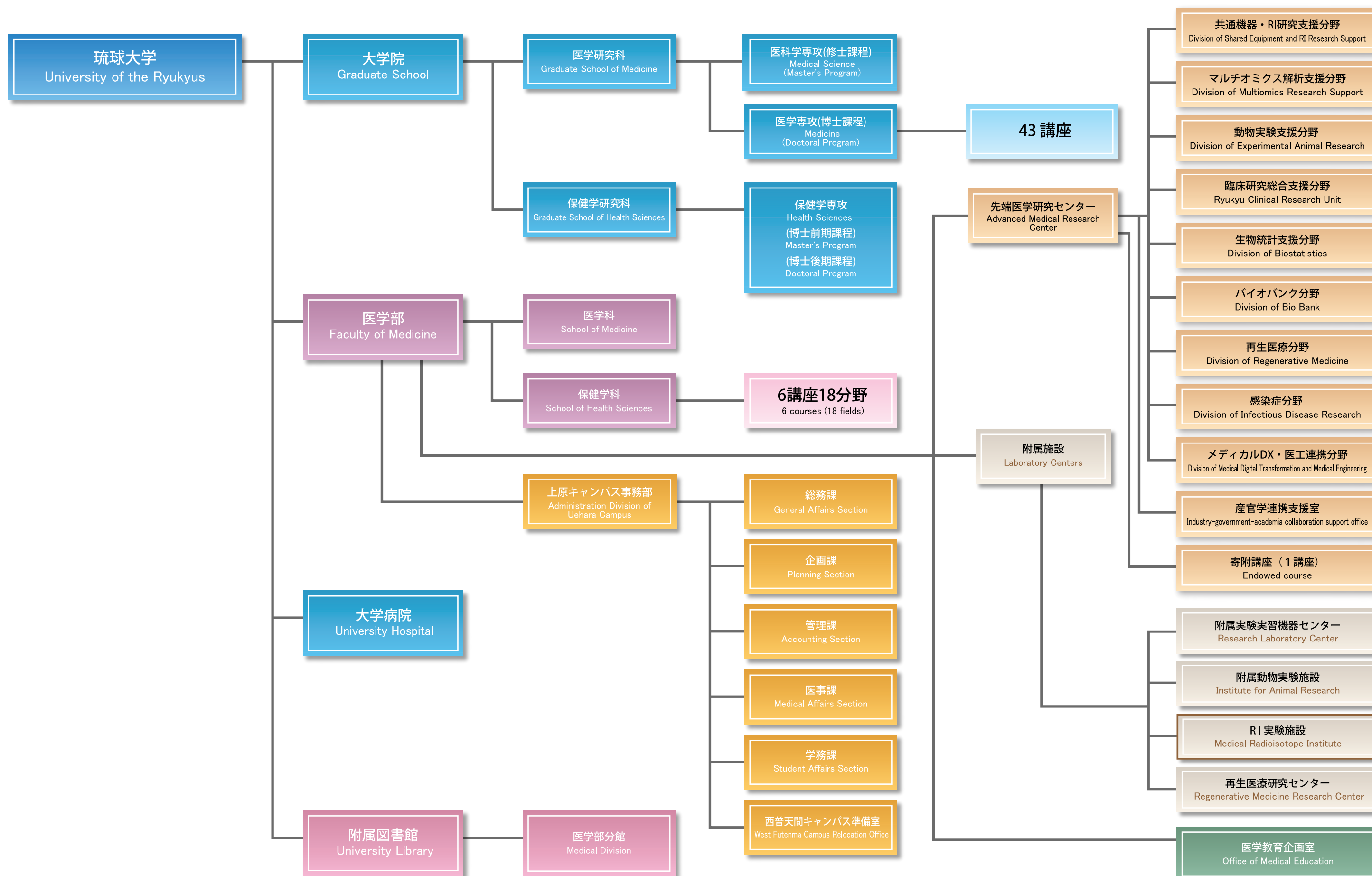
チェンマイ大学看護学部学生との交流



保健学研究科大学院生による海外フィールド調査



医学部生によるラオス現地視察



※□は学内措置施設

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine		
医学研究科長（併） Dean	教授 Professor	筒井 正人 TSUTSUI Masato
医学専攻（博士課程） Medicine（Doctoral Program）		
システム生理学講座 Systems Physiology	教授 Professor	宮里 実 MIYAZATO Minoru
放射線診断治療学講座 Radiology	教授 Professor	西江 昭弘 NISHIE Akihiro
脳神経外科講座 Neurosurgery	教授 Professor	浜崎 禎 HAMASAKI Tadashi
眼科学講座 Ophthalmology	教授 Professor	古泉 英貴 KOIZUMI Hideki
育成医学講座 Child Health and Welfare	教授 Professor	中西 浩一 NAKANISHI Koichi
耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	教授 Professor	鈴木 幹男 SUZUKI Mikio
精神病態医学講座 Neuropsychiatry	准教授 Assoc.Prof.	高江洲 義和 TAKAESU Yoshikazu
再生医学講座 Regenerative Medicine	教授 Professor	野口 洋文 NOGUCHI Hirofumi
先進ゲノム検査医学講座 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	教授 Professor	前田 士郎 MAEDA Shiro
分子解剖学講座 Molecular Anatomy	教授 Professor	高山 千利 TAKAYAMA Chitoshi
ゲノム医学講座 Medical Genomics	准教授 Assoc.Prof.	小田 高也 ODA Takaya
人体解剖学講座 Human Biology and Anatomy	教授 Professor	木村 亮介 KIMURA Ryosuke
分子・細胞生理学講座 Molecular and Cellular Physiology	教授 Professor	松下 正之 MATSUSHITA Masayuki
薬理学講座 Pharmacology	教授 Professor	筒井 正人 TSUTSUI Masato
胸部心臓血管外科学講座 Thoracic and Cardiovascular Surgery	教授 Professor	古川 浩二郎 FURUKAWA Kojiro
麻酔科学講座 Anesthesiology	教授 Professor	垣花 学 KAKINOHANA Manabu
整形外科科学講座 Orthopedic Surgery	教授 Professor	西田 康太郎 NISHIDA Kotaro
腎泌尿器外科学講座 Department of Urology	教授 Professor	猪口 淳一 INOKUCHI Junichi
顎顔面口腔機能再建学講座 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation	教授 Professor	中村 博幸 NAKAMURA Hiroyuki
救急医学講座 Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	梅村 武寛 UMEMURA Takehiro
臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics	教授 Professor	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro
薬物治療学講座（協力） Pharmacotherapy	教授 Professor	中村 克徳 NAKAMURA Katsunori
医化学講座 Medical Biochemistry	教授 Professor	鈴木 健夫 SUZUKI Takeo

生化学講座 Biochemistry	教授 Professor	黒柳 秀人 KUROYANAGI Hidehito
腫瘍病理学講座 Pathology and Oncology	教授 Professor	和田 直樹 WADA Naoki
細胞病理学講座 Pathology and Cell Biology	教授 Professor	川上 史 KAWAKAMI Fumi
公衆衛生学・疫学講座 Public Health and Epidemiology	教授 Professor	中村 幸志 NAKAMURA Koshi
法医学講座 Legal Medicine	教授 Professor	二宮 賢司 NINOMIYA Kenji
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	教授 Professor	益崎 裕章 MASUZAKI Hiroaki
循環器・腎臓・神経内科学講座 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	教授 Professor	楠瀬 賢也 KUSUNOSE Kenya
消化器・腫瘍外科学講座 Digestive and General Surgery	教授 Professor	高槻 光寿 TAKATSUKI Mitsuhsa
女性・生殖医学講座 Medical Science of Women and Reproduction	教授 Professor	関根 正幸 SEKINE Masayuki
微生物学・腫瘍学講座 Microbiology and Oncology	教授 Professor	森 直樹 MORI Naoki
細菌学講座 Bacteriology	教授 Professor	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu
免疫学・寄生虫学講座 Immunology and Parasitology	教授 Professor	岸本 英博 KISHIMOTO Hidehiro
皮膚科学講座 Dermatology	教授 Professor	高橋 健造 TAKAHASHI Kenzo
感染症・呼吸器・消化器内科学講座 Infectious, Respiratory, and Digestive Medicine	教授 Professor	山本 和子 YAMAMOTO Kazuko
生体防御学講座（協力） Host Defense	教授 Professor	松崎 吾朗 MATSUZAKI Goro
感染免疫制御学講座（協力） Vaccinology and Vaccine Development	教授 Professor	新川 武 ARAKAWA Takeshi
ウイルス学講座 Virology	教授 Professor	大野 真治 OHNO Shinji
臨床研究教育管理学講座 Clinical Research and Quality Management	教授（併） Professor	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro
形成外科学講座 Plastic and Reconstructive Surgery	教授 Professor	清水 雄介 SHIMIZU Yusuke
先進医療創成科学講座 Investigative Medicine	教授 Professor	山下 暁朗 YAMASHITA Akio

医科学専攻（修士課程）
Medical Sciences (Master's Program)

大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences		
保健学研究科長（併） Dean	教授 Professor	平井 到 HIRAI Itaru
人間健康開発学領域 Human Health Promotion	国際島嶼保健学領域 International & Islands Health Sciences	

医学部長（併） Dean	
教授 Professor	筒井 正人 TSUTSUI Masato
副医学部長（併） Vice-Dean	
教授 Professor	岸本 英博 KISHIMOTO Hidehiro
教授 Professor	古泉 英貴 KOIZUMI Hideki
教授 Professor	大野 真治 OHNO Shinji
教授 Professor	原嶋 奈々江 HARASHIMA Nanae
学部長補佐（併） Assistant to the Dean	
教授 Professor	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu
医学科長（併） School of Medicine	
教授 Professor	高槻 光寿 TAKATSUKI Mitsuhsa
保健学科長（併） School of Health Sciences	
教授 Professor	豊里 竹彦 TOYOSATO Takehiko

保健学科 School of Health Sciences		
基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing		
基礎看護学分野 Fundamental Nursing	教授 Professor	豊里 竹彦 TOYOSATO Takehiko
疫学・健康教育学分野 Epidemiology and Health Promotion		
生物統計学分野 Biostatistics	教授 Professor	米本 孝二 YONEMOTO Koji
成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing		
成人・がん看護学分野 Adult Health and Cancer Nursing	教授 Professor	照屋 典子 TERUYA Noriko
在宅・慢性期看護学分野 Home Care and Chronic Care Nursing	准教授 Assoc.Prof.	関口 浩至 SEKIGUCHI Hiroshi
老年看護学分野 Gerontological Nursing	准教授 Assoc.Prof.	東恩納 美樹 HIGAONNA Miki
母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing		
母性看護・助産学分野 Maternal Nursing and Midwifery	教授 Professor	遠藤 由美子 ENDO H Yumiko
小児看護学分野 Child Health Nursing		
国際地域保健学分野 Global Health	教授 Professor	小林 潤 KOBAYASHI Jun

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing		
地域看護学分野 Community Health Nursing	准教授 Assoc.Prof.	當山 裕子 TOYAMA Yuko
精神看護学分野 Mental Health Nursing	教授 Professor	與古田 孝夫 YOKOTA Takao
臨床心理・学校保健学分野 Clinical Psychology and School Health	准教授 Assoc.Prof.	喜屋武 享 KYAN Akira
生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences		
生体代謝学分野 Biometabolic Chemistry	教授 Professor	原嶋 奈々江 HARASHIMA Nanae
分子遺伝学分野 Molecular Genetics	教授 Professor	中尾 浩史 NAKAO Hiroshi
形態病理学分野 Morphological Pathology	教授 Professor	金城 貴夫 KINJO Takao
病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences		
病原体検査学分野 Microbiology	教授 Professor	平井 到 HIRAI Itaru
生理機能検査学分野 Clinical Physiology	教授 Professor	粟田 久多佳 AWATA Hisataka
血液免疫検査学分野 Hematoimmunology	教授 Professor	福島 卓也 FUKUSHIMA Takuya

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center		
センター長 Director	教授（併） Professor	筒井 正人 TSUTSUI Masato
共通機器・RI研究支援分野 Division of Shared Equipment and RI Research Support	教授（併） Professor	岸本 英博 KISHIMOTO Hidehiro
マルチオミクス解析支援分野 Division of Multiomics Research Support	教授（併） Professor	鈴木 健夫 SUZUKI Takeo
動物実験支援分野 Division of Experimental Animal Research	教授（併） Professor	高山 千利 TAKAYAMA Chitoshi
臨床研究総合支援分野 Ryukyu Clinical Research Unit	教授（併） Professor	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro
生物統計支援分野 Division of Biostatistics	教授（併） Professor	米本 孝二 YONEMOTO Koji
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	教授（併） Professor	前田 士郎 MAEDA Shiro
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	教授（併） Professor	高槻 光寿 TAKATSUKI Mitsuhsa
感染症分野 Division of Infectious Disease Research	教授（併） Professor	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu
メディカルDX・医工連携分野 Division of Medical Digital Transformation and Medical Engineering	教授（併） Professor	横田 秀夫 YOKOTA Hideo
ブレイン・ヘルスケア学講座（寄附） Department of Brain Healthcare	特命教授 Specially Appointed Professor	石内 勝吾 ISHIUCHI Shogo
産官学連携支援室 Industry-government-academia collaboration support office		

医学教育企画室 Office of Medical Education		
室長（併）・教授 Professor	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu	

6 職員

Academic and Administrative Staffs

7 講座及び分野配置図

Departments and Subjects Map

病院職員 Hospital Staff

薬剤部 教授 Professor	Department of Pharmacy 中村 克徳 NAKAMURA Katsunori
地域・国際医療部 診療教授 Clinical Professor	Department of Community Medical Service 中島 信久 NAKAJIMA Nobuhisa
救急部 特命教授 Specially Appointed Professor	Emergency Unit 武村 克哉 TAKEMURA Katuya
救急部 特命准教授 Specially Appointed Assoc.Prof	Emergency Unit 大内 元 OUCHI Gen
放射線部 准教授 Assoc.Prof	Division of Radiological Service 與儀 彰 YOGI Akira
血液浄化療法部 診療教授 Clinical Professor	Blood Purification Unit 古波蔵 健太郎 KOHAGURA Kentaro
医療情報部 教授 Professor	Medical Informatics 廣瀬 康行 HIROSE Yasuyuki
周産母子センター 教授 Professor	Maternity and Perinatal Care Center 銘苅 桂子 MEKARU Keiko
周産母子センター 准教授 Assoc.Prof	Maternity and Perinatal Care Center 吉田 朝秀 YOSHIDA Tomohide
がんセンター 診療教授 Clinical Professor	Cancer Center 増田 昌人 MASUDA Masato
総合臨床研修・教育センター 診療教授 Clinical Professor	Comprehensive Health Professions Education Center 原永 修作 HARANAGA Shusaku
診療情報管理センター 特命教授 Specially Appointed Professor	Health Information Management Center 平田 哲生 HIRATA Tetsuo
心臓血管低侵襲治療センター 特命教授 Specially Appointed Professor	Non-invasive Cardiovascular Intervention Center 岩淵 成志 IWABUCHI Masashi
おきなわクリニカル シュミレーションセンター 特命教授 Specially Appointed Professor	Okinawa Clinical Simulation Center 奥村 耕一郎 OKUMURA Koichiro
沖縄県地域医療支援センター 特命准教授 Specially Appointed Assoc.Prof	Okinawa Community Medicine Support Center 川妻 由和 KAWAZUMA Yoshikazu
高気圧治療部 准教授 Assoc.Prof	Center for Hyperbaric Medicine and Environmental Health 前原 博樹 MAEHARA Hiroki

職員数 Number of Staff Member

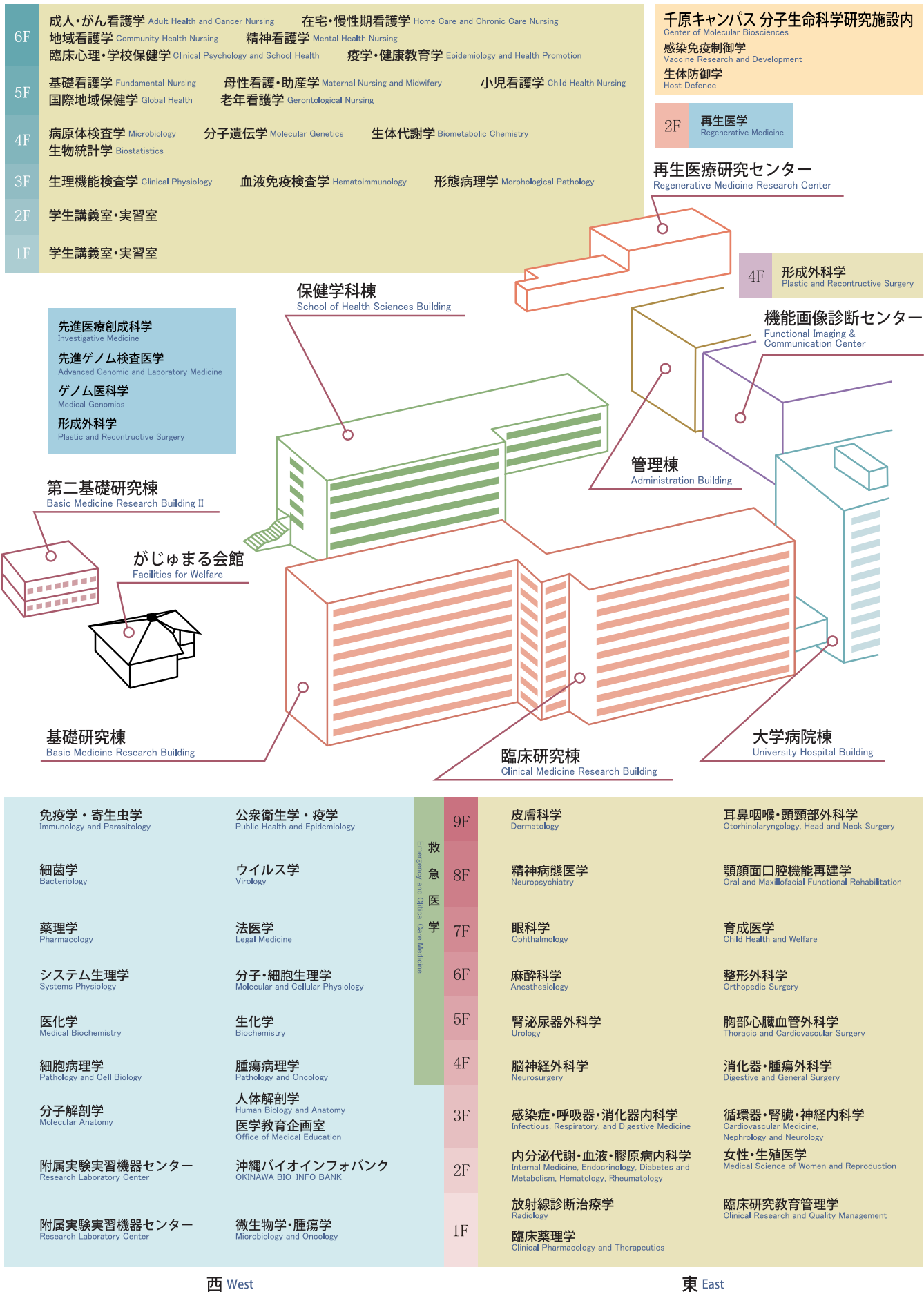
令和6年5月1日現在 (as of May1,2024)									
職種区分 Classification		医学部 Faculty of Medicine		医学研究科 Graduate School of Medicine		病院 University Hospital		上原キャンパス 事務部 Administration Division of Uehara Campus	
		常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff	常勤 Permanent Staff	非常勤 Non-Permanent Staff
教員 Academic	教授 Professors	16[4]	0	37	0	5[3]	0	0	0
	准教授 Associate Professors	16[3]	0	21	0	10[6]	0	0	0
	講師 Instructor	4[1]	0	2	0	33[6]	0	0	0
	助教 Assistant Professors	11[1]	0	64[1]	0	66[11]	0	0	0
医員 Medical Staffs		0	0	0	0	0	203	0	0
専門指導医 Medical Directors		0	0	0	0	0	12	0	0
研修医 Residents		0	0	0	0	0	38	0	0
ポスドク研究員 Postdoctoral Fellows		0	2	0	0	0	2	0	0
産学官連携研究員 Research Fellows		0	1	0	0	0	1	0	0
特命研究員 Specially Appointed Fellows		1[1]	1	0	0	0	0	0	0
事務系職員 Administrative Staffs		7[3]	63[2]	1[1]	0	19[9]	75	118	61
技能職員 Technical Staffs		29	55	0	0	19[1]	62	0	0
医療系職員 Paramedical		0	0	1[1]	0	195[4]	11	0	0
看護師 Nurses		0	3	0	0	627[2]	25	0	0
看護助手 Nurses Aides		0	0	0	0	0	63	0	0
教務職員 Research Associates		0	1	0	0	0	0	0	0
合 計 Total		84	126	126	0	974	492	118	61

注 [] は特命教職員で内数
注 長期休暇者(育児休業者など)を除く

附属図書館医学部分館 Library,Medical Division

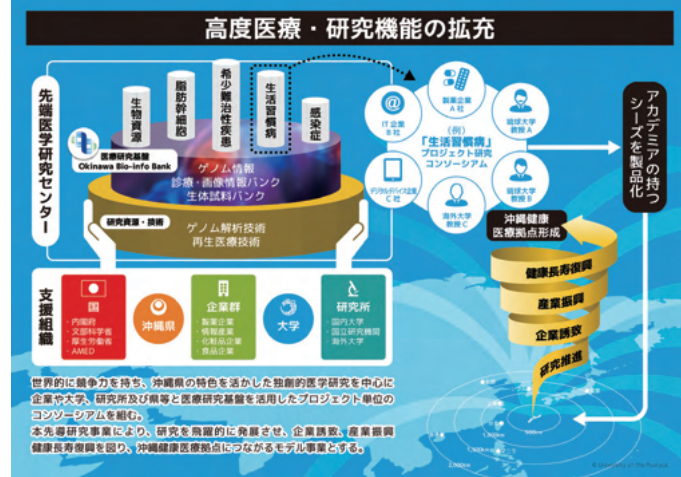
おきなわクリカル シュミレーションセンター 特命教授 Specially Appointed Professor	Okinawa Clinical Simulation Center 奥村 耕一郎 OKUMURA Koichiro
沖縄県地域医療支援センター 特命准教授 Specially Appointed Assoc.Prof	Okinawa Community Medicine Support Center 川妻 由和 KAWAZUMA Yoshikazu
高気圧治療部 准教授 Assoc.Prof	Center for Hyperbaric Medicine and Environmental Health 前原 博樹 MAEHARA Hiroki

医学部分館長(併)・教授 Director,Professor				古 泉 英 貴 KOIZUMI Hideki	
上原キャンパス事務部 Administration Division of Uehara Campus					
事務部長 Director	加藤 善一 KATO Yoshikazu	総務課長 Head for General Affairs Section	知 念 芳和 CHINEN Yoshikazu		
企画課長 Head for Planning Section	東 香純 AZUMA Kasumi	管理課長 Head for Accounting Section	池 原 広和 IKEHARA Hirokazu		
医事課長 Head for Medical Affairs Section	後藤 哲也 GOTO Tetsuya	学務課長 Head for Student Affairs Section	眞喜志 睦 MAKISHI Atsushi		



先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

先端医学研究センターは、沖縄健康医療拠点の形成に向けた研究推進の中核を担う組織として2016年に設立されました。基礎研究支援部門と臨床研究支援部門からなり、亜熱帯・島嶼という地理的特性をふまえた本学部の特色ある先端医学研究を支援しています。また、製薬会社やベンチャー企業等の産業界、日本政府の各省庁、ならびに沖縄県等の地方自治体との産官学連携による沖縄発の医療イノベーションの創出を目指しています。本センターには、2016年に沖縄バイオインフォーメーションバンクが設立され、沖縄県住民の検体、ヒト脂肪幹細胞、生物資源ライブラリなどがストックされ、ヒトゲノム研究、再生医療研究、創薬開発などが行われ成果を上げています。また、2015年には再生医療研究センターが設立され、再生医療・細胞治療研究が活発に行われています。



附属実験実習機器センター Research Laboratory Center

当センターは、大型の研究機器の効率的な管理・運用を目的として、昭和58年8月、医学部基礎研究棟の1階と2階に医学部附属共同利用施設として設立されました。当センターには、電子顕微鏡、生化学・分子生物学関連の機器、P3レベルの組換え生物・病原微生物の実験が可能な実験室、各種医用電子機器、および学内LAN・ネットワーク機器を備え、それらの管理・運用を行っています。近年は、共焦点レーザー顕微鏡、セルアナライザー、セルソーター等の細胞解析装置や、小型次世代DNAシーケンサー、一分子リアルタイムDNAシーケンサー、デジタルPCR装置などゲノム解析装置が順次導入され運用されています。当センターでは、今後、これらの機器を活用した研究の推進に貢献すると共に、さらなる機能強化を図って行きたいと考えています。



附属動物実験施設 Institute for Animal Research



附属動物実験施設



飼育装置

医学部附属の共同利用施設として、昭和58年10月31日に第一期、昭和62年9月30日に第二期、平成5年3月31日に第三期の各工事を経て、合計約3,000㎡の動物実験施設が竣工しました。本施設は医学部附属施設ですが、本学唯一の本格的動物実験施設であることから学内共同利用施設として位置付けられており、他学部の研究者及び学生にも開放されています。施設は、臨床・基礎研究棟から独立した鉄筋コンクリート3階建ての建物で、通常条件下での動物飼育・実験室のほかに、感染実験動物飼育室・実験室、SPF動物飼育室・実験室、教員実験室、多目的飼育室、実習用セミナー室、洗浄滅菌室、事務室等からなっています。実験動物学の研究、教育の発展に対する貢献を目指して施設機能の充実を図っています。

再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center

沖縄県の再生医療中核拠点として、平成27年4月に再生医療研究センターが設置され、同年6月に開所式が行われました。当センターは、ロート製薬(株)から寄贈された2階建ての建物(延床面積812㎡)の1階部分に、沖縄県の先端医療産業開発拠点形成事業で整備された本格的な細胞培養加工施設(床面積224㎡)を有しています。この細胞培養加工施設は、合計12のユニットからなる本格的なもので、近年主流になりつつあるアイソレータ方式を採用しています。このアイソレータ内は極めて高い無菌状態と



再生医療研究センター外観

なっており、GMP基準に準拠した再生医療用の細胞を調製できます。

当センターの業務は、細胞培養加工施設を維持管理・運営しつつ、安全な再生医療用の細胞を供給し、医学部附属病院や医療機関、研究機関、企業などと連携して優れた再生医療研究を実用化することです。将来的には、当センターにて実用化された再生医療を多くの患者さんに提供し、沖縄県の健康社会の実現と再生医療の産業化推進に貢献したいと考えています。



細胞調製ユニット内のアイソレータ

RI実験施設(学内措置施設) Medical Radioisotope Institute

RI実験施設は、昭和58年11月科学技術庁による承認を受け、3階建て延べ約1,200㎡の管理区域からなる学内共同利用施設として開設され、医学部放射線安全委員会ならびにRI実験施設運営委員会の指導の下、施設長(併任)、施設主事(併任)、専任職員、非常勤事務補佐員の4名が、利用

者に対する定期的な教育訓練、被ばく管理、ならびに施設の安全管理等の業務を担当しています。

当施設は、令和6年2月末日付で施設内でのすべての実験実施を終了して廃止となり、令和6年7月末日付で廃止措置が完了予定です。



施設外観



β線測定室

9 学生の定員・現員及び入学状況

Quota and Admission of Students

1.医学部学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Medical Students

令和6年5月1日現在 (as of May1,2024)

学科 School	入学定員 Enrollment Quota 内数5名 2年次編入	収容定員 Total Number	現 員 Present Number of Medical Students													
			1 年 First		2 年 Second		3 年 Third		4 年 Fourth		5 年 Fifth		6 年 Sixth		合計 Total	
			男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学科 School of Medicine	117 (5)	697	84	46	67	53	68	55	52	59	72	50	63	61	406	324
			130		120		123		111		122		124		730	
保健学科 School of Health Sciences	60	240	15	47	19	47	12	48	15	53					61	195
			62		66		60		68						256	

2.医学部入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and Enrollment

令和6年度

学科 School	入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted		
		男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total
医学科 School of Medicine	112	514	385	899	72	40	112
保健学科 School of Health Sciences	60	49	155	204	15	45	60

3.医学部学生の都道府県別入学状況 Regional Distribution of Enrollment

令和6年度

学科 School	沖縄 Okinawa	東京 Tokyo	神奈川 Kanagawa	愛知 Aichi	京都 Kyoto	奈良 Nara	広島 Hiroshima	福岡 Fukuoka	鹿児島 Kagoshima	その他 Others	合計 Total
医学科 School of Medicine	70 (24)	6 (2)	4 (1)	4 (4)	3 (2)	3 (1)	5 (0)	3 (1)	1 (0)	13 (5)	112 (40)
学科 School	沖縄 Okinawa	東京 Tokyo	新潟 Niigata	奈良 Nara	福岡 Fukuoka	長崎 Nagasaki				その他 Others	合計 Total
保健学科 School of Health Sciences	55 (41)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)				0 (0)	60 (45)

注 () は女子で内数 Note:The number of female students is indicated in parentheses.

4.大学院学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Graduate School Students

令和6年5月1日現在 (as of May1,2024)

研究科 Graduate School		入学定員 Enrollment Quota	収容定員 Total Number	現 員 Present Number of Graduate School Students									
				1 年 First		2 年 Second		3 年 Third		4 年 Fourth		合計 Total	
				男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	30	6	0	4	2					10	2
			6		6		12						
	博士 Doctoral Course	30	120	20	11	12	7	15	10	60	32	107	60
				31		19		25		92		167	
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	20	5	5	5	6					10	11
			10		11		21						
	博士後期 Doctoral Course	3	9	1	2	2	5	3	9			6	16
				3		7		12				22	

5.大学院入学志願者数及び入学者数 Number of Graduate School Applicants and Enrollment

令和6年度

研究科 Graduate School		入学定員 Enrollment Quota	入学志願者数 Quota Applicants			入学者数 Enrollment Permitted		
			男 Male	女 Female	合計 Total	男 Male	女 Female	合計 Total
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	15	6	0	6	6	0	6
	博士 Doctoral Course	30	20	10	30	19	10	29
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences	博士前期 Master's Course	10	5	3	8	3	2	5
	博士後期 Doctoral Course	3	2	3	5	1	1	2

6.外国人留学生状況 Number of International Students

令和6年5月1日現在 (as of May 1, 2024)

研究科 Graduate School		1 年 First		2 年 Second		3 年 Third		4 年 Fourth		5 年 Fifth		6 年 Sixth		合計 Total		
		男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	男 Male	女 Female	
医学科 School of Medicine		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
		0		0		0		0		1		0		1		
保健学科 School of Health Sciences		0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	
		0		0		0		0						0		
医学研究科 Graduate School of Medicine	修士 Master's Course	1	0	0	1									1	1	
		1		1										2		
	博士 Doctoral Course	1	0	0	0	2	0	1	0					4	0	
		1		0		2		1						4		
保健学研究科 Graduate School of Health Sciences		博士前期 Master's Course	2	2	1	0									3	2
			4		1										5	
		博士後期 Doctoral Course	0	1	1	0	0	1							1	2
1			1		1		3									

注 () は国費留学生で内数 Note:The number of Japanese Government Scholarship Students is indicated in parentheses.

10 卒後の主な就職先

Main places of employment

医学科 (臨床研修) School of Medicine (Clinical training)

(沖縄県内) 琉球大学病院、各県立病院、那覇市立病院、浦添総合病院、沖縄赤十字病院、友愛医療センター、ハートライフ病院、中頭病院、中部徳洲会病院、他
(県 外) 九州大学病院、神戸大学附属病院、聖路加国際病院、横浜市立大学附属病院、札幌東徳洲会病院、自治医科大学附属病院、
広島市立広島市民病院 他

保健学科 School of Health Sciences

(沖縄県内) 琉球大学病院、県立中部病院、浦添総合病院、那覇市立病院、中頭病院、中部徳洲会病院、南部療育医療センター 他
(県 外) 九州大学病院、千葉大学病院、九州医療センター、関西医科大学 他

医学研究科 Graduate School of Medicine

(沖縄県内) 琉球大学、琉球大学病院、ちゅうざん病院、浦添総合病院 他
(県 外) 群馬県立精神医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター 他

保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

(沖縄県内) 県立中部病院 他

区分 Classification	収集数 Number of Cadavers Gathered	解剖数 Number of Autopsies	実習時間 Practical Period	備考
平成29年度 (2017)	58	4 3 29	29.04.17 ~ 29.07.28 29.07.03 ~ 29.07.28 29.09.27 ~ 29.12.25	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習(M1)
平成30年度 (2018)	36	2 6 29	30.04.16 ~ 30.08.08 30.07.02 ~ 30.08.08 30.09.28 ~ 30.03.02	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和元年度 (2019)	44	3 6 29	31.04.08 ~ 元.08.20 元.07.01 ~ 元.08.02 元.07.17 ~ 02.03.01	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和2年度 (2020)	38	2 6 28	02.04.10 ~ 02.08.24 02.07.06 ~ 02.07.29 02.09.23 ~ 02.12.21	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和3年度 (2021)	33	2 6 28	03.04.09 ~ 03.08.12 03.07.05 ~ 03.07.30 03.09.22 ~ 03.12.24	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和4年度 (2022)	37	2 6 28	04.05.11 ~ 04.08.26 04.07.04 ~ 04.07.29 04.09.21 ~ 04.12.23	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和5年度 (2023)	38	3 5 28	05.06.28~05.08.25 05.07.03~05.07.28 05.09.25~05.12.22	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)

(医学部分館 令和6年4月1日現在) (as of April,2024)

区分 Classification	図書 Books	学術雑誌 Journals
和書 Japanese	57,235冊	2,217種
洋書 Foreign	41,825冊	1,460種
合計 Total	99,060冊	3,677種

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教 授 名	主 要 研 究 概 要
システム生理学 Systems Physiology	宮 里 実 MIYAZATO Minoru	神経科学、神経生理学、排尿学、疼痛学、行動科学、行動薬理 Neuroscience, Neurophysiology, Urination, Pain, Behavioral Science, Behavioral Pharmacology
放射線診断治療学 Radiology	西 江 昭 弘 NISHIE Akihiro	放射線診断学、CT、MRI、核医学、IVR、放射線治療 Diagnostic Radiology, Computed Tomography, Magnetic Resonance Imaging, Nuclear Medicine, Interventional Radiology, Radiotherapy
脳神経外科学 Neurosurgery	浜崎 禎 HAMASAKI Tadashi	脳神経外科、脳腫瘍の外科、脳卒中の外科、頭部外傷の外科、機能神経外科 Neurosurgery, surgery for brain tumor, surgery for cerebrovascular disease, surgery for head trauma, functional neurosurgery
眼科学 Ophthalmology	古 泉 英 貴 KOIZUMI Hideki	黄斑疾患、網膜硝子体疾患、緑内障 Macular Disease,Vitreoretinal Disease,Glaucoma
育成医学 Child Health and Welfare	中 西 浩 一 NAKANISHI Koichi	小児科学、小児腎臓病、遺伝性腎疾患 Pediatrics, Pediatric Nephrology, Hereditary Kidney Disease
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	鈴 木 幹 男 SUZUKI Mikio	側頭骨外科、人工内耳手術、頭頸部腫瘍外科、鼻副鼻腔内視鏡手術、神経耳科、脳機能画像研究 Temporal Bone Surgery, Cochlear Implant, Head and Neck Surgery, Endoscopic Sinonasal Surgery, Neurotology, and Human Brain Mapping
精神病態医学 Neuropsychiatry	高江洲 義和（准教授） TAKAESU Yoshikazu (Assoc.Prof.)	精神薬理学、臨床心理学、精神病理学、予防精神医学、睡眠医学 Psychopharmacology, Clinical psychology, Psychopathology, Preventive Psychiatry, Sleep Medicine
再生医学 Regenerative Medicine	野 口 洋 文 NOGUCHI Hirofumi	再生医学、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
先進ゲノム検査医学 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	前 田 士 郎 MAEDA Shiro	集団遺伝学、疾患感受性遺伝子研究 Population Genetics, Genetic Study for Common Disease Susceptibility
分子解剖学 Molecular Anatomy	高 山 千 利 TAKAYAMA Chitoshi	神経解剖学、神経生物学、発生学 Neuroanatomy, Neurobiology, Embryology
ゲノム医科学 Medical Genomics	小 田 高 也（准教授） ODA Takaya (Assoc.Prof)	ヒトゲノム反復配列の分子生物学的研究 Molecular biological research for the repetitive elements of the human genome
人体解剖学 Human Biology and Anatomy	木 村 亮 介 KIMURA Ryosuke	形質人類学、人類遺伝学、肉眼解剖学、発生生物学 Physical Anthropology, Human Genetics, Gross Anatomy, Developmental Biology
分子・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology	松 下 正 之 MATSUSHITA Masayuki	分子生理学・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology
薬理学 Pharmacology	筒 井 正 人 TSUTSUI Masato	薬理学、一酸化窒素、活性硫黄、食物アレルギー、循環器病学 Pharmacology, Nitric Oxide, Reactive Sulfur, Food Allergy, Cardiovascular Medicine
胸部心臓血管外科学 Thoracic and Cardiovascular Surgery	古 川 浩 二 郎 FURUKAWA Kojiro	心臓血管外科学、呼吸器外科学、一般外科学、人工臓器 Cardiovascular Surgery, General Thoracic Surgery, General Surgery, Artificial Organ
麻酔科学 Anesthesiology	垣 花 学 KAKINOHANA Manabu	呼吸不全、脳・脊髄循環及び代謝、集中治療医学、疼痛管理学 Respiratory Failure, Cerebrospinal Circulation and Metabolism, Intensive Care Medicine, Pain Clinic

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教 授 名	主 要 研 究 概 要
整形外科学 Orthopedic Surgery	西 田 康太郎 NISHIDA Kotaro	整形外科学、脊椎外科学、骨軟部腫瘍学、関節外科学、手外科学、小児整形外科学、関節リウマチ学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、マイクロ手術、内視鏡手術、外傷学、再建外科学 Orthopedic Surgery, Spine Surgery, Bone & Soft Tissue Tumor, Joint Surgery, Hand Surgery, Pediatric Orthopedic Surgery, Rheumatology, Rehabilitation Medicine, Sport Medicine, Micro Surgery, Endoscopic Surgery, Traumatology, Reconstructive Surgery
形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	清水 雄介 SHIMIZU Yusuke	形成外科学、再建外科学、マイクロサージャリー、眼形成外科、先天異常学、幹細胞生物学 Plastic Surgery, Reconstructive Surgery, Micro Surgery, Ophthalmic Plastic Surgery, teratology, Stem cell biology
腎泌尿器外科学 Department of Urology	猪口 淳一 INOKUCHI Junichi	泌尿器系癌、ロボット支援手術、腹腔鏡手術、排尿機能、小児泌尿器科、腎移植、尿路結石および尿路感染症、骨盤臓器脱、糖鎖生物学、腫瘍マーカー Urologic Oncology, Robot-assited Surgery, Laparoscopic Surgery, Urinary function, Pediatric Urology, Renal Transplantation, Urolithiasis & urinary tract infection, Pelvic Organ Prolapse, Glycobiology, Tumor marker
顎顔面口腔機能再建学 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation	中村 博幸 NAKAMURA Hiroyuki	口腔外科学、口腔科学、口腔腫瘍生物学、社会歯学、再生歯学 Oral surgery, Oral science, Oral tumor biology, Social dentistry, Regenerative dentistry
救急医学 Emergency and Critical Care Medicine	梅村 武寛 UMEMURA Takehiro	救急医学、救命救急医学、外傷学、中毒学、災害医学、遠隔医療学 Emergency Medicine, Critical Care Medicine, Traumatology, Toxicology, Disaster Medicine, Telemedicine
臨床薬理学 Clinical Pharmacology and Therapeutics	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro	心血管臨床薬理学、心血管内分泌代謝学、一般内科治療学、EBMと臨床試験 Cardiovascular Clinical, Pharmacology and Therapeutics, Cardiovascular Endocrinology and Meta-bolism, General Medicine, Evidence Based Medicine and Clinical Trial
薬物治療学(協力) Pharmacotherapy	中村 克徳 NAKAMURA Katsunori	薬物代謝学、薬理遺伝学 Drug metabolism, Pharmacogenetics
医化学 Medical Biochemistry	鈴木 健夫 SUZUKI Takeo	分子生物学、ケミカルバイオロジー、遺伝子工学、分子遺伝学 Molecular Biology, Chemical Biology, Genetic Engineering, Molecular Genetic
生化学 Biochemistry	黒柳 秀人 KUROYANAGI Hidehito	遺伝子発現制御機構の解明などの基礎研究およびその破綻に起因する疾患の病態発現機序の解明と治療法の開発 Basic research on regulation of eukaryotic gene expression and disease models caused by mutations in gene expression machinery.
腫瘍病理学 Pathology and Oncology	和田 直樹 WADA Naoki	腫瘍の臨床病理学的解析に関する研究および成人T細胞白血病・リンパ腫(ATLL)に対する診断学的アプローチに関する研究 Study on clinicopathological analyses of tumors and research on diagnostic approaches for adult T-cell leukemia/lymphoma (ATLL)
細胞病理学 Pathology and Cell Biology	川上 史 KAWAKAMI Fumi	婦人科腫瘍の臨床病理学的解析、分子遺伝学的解析 Clinico-pathological and molecular analysis of gynecological cancers
公衆衛生学・疫学 Public Health and Epidemiology	中村 幸志 NAKAMURA Koshi	疫学、生活習慣病(循環器領域)予防、健康増進 Epidemiology, Prevention of Lifestyle-related Disease (e.g., Cardiovascular and Metabolic Disease), Health Promotion
法医学 Legal Medicine	二宮 賢司 NINOMIYA Kenji	法医病理学、法医中毒学 Forensic Pathology, Forensic Toxicology
内分泌代謝・血液・膠原病内科学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	益崎 裕章 MASUZAKI Hiroaki	内科学、内分泌・代謝病学、糖尿病学、血液病学、膠原病・リウマチ学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rhennatology
循環器・腎臓・神経内科学 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	楠瀬 賢也 KUSUNOSE Kenya	内科学、循環器病学、腎臓病学、高血圧学、神経病学、脳卒中学、臨床疫学、人工知能 Internal Medicine, Cardiology, Nephrology, Hypertension, Neurology, Strokeology, Clinical Epidemiology, Artificial Intelligence
消化器・腫瘍外科学 Digestive and General Surgery	高槻 光寿 TAKATSUKI Mitsuhsa	一般外科学、消化器外科学、乳腺内分泌外科学、小児外科学 General Surgery, Digestive Surgery, Breast and Endocrine Surgery, Pediatric Surgery
女性・生殖医学 Medical Science of Women and Reproductionnt	関根 正幸 SEKINE Masayuki	婦人科腫瘍学、生殖医学、周産期医学、婦人科手術学、内視鏡下手術 Gynecologic Oncology, Reproductive Medicine, Perinatal Medicine, Gynecologic Surgery, Endoscopic Surgery

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教 授 名	主 要 研 究 概 要
微生物学・腫瘍学 Microbiology and Oncology	森 直樹 MORI Naoki	ウイルスおよび細菌関連腫瘍における発がん機構の解析とその予防・治療法の開発 Analysis of Mechanisms for Viral and Bacterial Pathogens-associated Carcinogenesis, and Development of Novel Molecular-targeted Prevention and Therapy of Malignancy
細菌学 Bacteriology	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu	病原細菌における病原因子の解明・制御に関する研究および疫学的研究 Studies on the pathogenesis, epidemiology and control of the bacteria that cause tropical diseases.
免疫学・寄生虫学 Immunology and Parasitology	岸本 英博 KISHIMOTO Hidehiro	寄生虫及び感染症の免疫学的、分子生物学的研究 Immunological research for Parasites infection and infectious diseases
皮膚科学 Dermatology	高橋 健造 TAKAHASHI Kenzo	皮膚科学、皮膚腫瘍学、皮膚老化、角化症、琉球地方の皮膚病 Dermatology, Skin Cancer, Skin aging, Genodermatosis, Skin diseases of the Ryukyus
先進医療創成科学 Investigative Medicine	山下 暁朗 YAMASHITA Akio	創薬科学、分子細胞生物学 Drug development, Molecular Cell Biology
感染症・呼吸器・消化器内科学 Infectious, Respiratory, and Digestive Medicine	山本 和子 YAMAMOTO Kazuko	感染症学、呼吸器病学、消化器病学、抗微生物治療学、臨床微生物学 Infectious Diseases, Respiratory Medicine, Digestive Medicine, Antimicrobial Chemotherapy, Clinical Microbiology
生体防御学(協力) Host Defense	松崎 吾朗 MATSUZAKI Goro	結核などの細菌感染症に対する防御免疫機構の解明 Protective Immunity and its Regulation against Infections of Mycobacteria and Other Bacteria
感染免疫制御学(協力) Vaccinology and Vaccine Development	新川 武 ARAKAWA Takeshi	組換えタンパク質性感染症ワクチン開発(主に豚・鶏等の家畜動物、養殖魚、伴侶動物対象) Recombinant vaccine development against infectious diseases of animals and fishes
ウイルス学 Virology	大野 真治 OHNO Shinji	ウイルス宿主間相互作用、ワクチン開発、ウイルス疫学 Virus-Host Interaction, Vaccine Development, and Viral Epidemiology
臨床研究教育管理学 Clinical Research and Quality Manageme	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro	臨床研究のデザイン・データ管理・解析・品質管理 Study design, Data management, Biostatics and Quality management for Investigator-initiated Clinical Research

琉球大学大学院医学研究科・医学部・大学病院研究概要

琉球大学医学部・大学院医学研究科・大学病院では様々な研究を行っています。
各講座等の研究内容については、医学部HPからご確認ください。



医学部HP
<https://www.med.u-ryukyu.ac.jp/category/research-brief>

医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

基礎看護学 Department of Fundamental Nursing

分野	教授名	主要研究概要
基礎看護学 Fundamental Nursing	豊里 竹彦 TOYOSATO Takehiko	基礎看護学、看護教育 Fundamental Nursing, Nursing Education
疫学・健康教育学 Epidemiology and Health Promotion		学校保健学、社会疫学、行動疫学、健康教育学 School Health, Public Health, Social Epidemiology, Behavioral Epidemiology, Health Promotion and Education
生物統計学 Biostatistics	米本 孝二 YONEMOTO Koji	生物統計学 Biostatistics

成人・老年看護学 Department of Adult and Gerontological Nursing

分野	教授名	主要研究概要
成人・がん看護学 Adult Health and Cancer Nursing	照屋 典子 TERUYA Noriko	成人看護学、がん看護学、緩和ケア Adult Health Nursing, Cancer Nursing, Palliative Care
在宅・慢性期看護学 Home Care and Chronic Care Nursing	関口 浩至(准教授) SEKIGUCHI Hiroshi (Assoc.Prof.)	災害看護、訪問看護師の教育・人材育成、表面筋電図を用いた呼吸補助筋活動分析 Disaster nursing, Education and human resource development of visiting nurses, Analysis of respiratory accessory muscle activity using Surface-EMG
老年看護学 Gerontological Nursing	東恩納 美樹(准教授) HIGAONNA Miki (Assoc.Prof.)	老年看護学 Gerontological Nursing

母子看護学 Department of Maternal and Child Nursing

分野	教授名	主要研究概要
母性看護・助産学 Maternal Nursing and Midwifery	遠藤 由美子 ENDO H Yumiko	母性看護学、助産学 Maternity Nursing, Midwifery
小児看護学 Child Health Nursing		小児看護学、母子看護学 Child Health Nursing, Maternal and Child Health Nursing
国際地域保健学 Global Health	小林 潤 KOBAYASHI Jun	低中所得国の保健政策・地域保健・母子保健・感染症対策に関する研究、アジア・太平洋地域の学校保健普及に関する研究 Research on health policy, community health, maternal and child health, and infectious disease control in low- and middle-income countries, Research on school health promotion in Asia and the Pacific Islands

地域看護学 Department of Community Health Nursing

分野	教授名	主要研究概要
地域看護学 Community Health Nursing	當山 裕子(准教授) TOYAMA Yuko (Assoc.Prof.)	公衆衛生看護学、地域看護学 Public Health Nursing, Community Health Nursing
精神看護学 Mental Health Nursing	與古田 孝夫 YOKOTA Takao	精神看護学、精神保健学 Mental Health Nursing, Mental Health
臨床心理・学校保健学 Clinical Psychology and School Health	喜屋武 享(准教授) KYAN Akira (Assoc.Prof.)	学校保健学、社会疫学、行動疫学、健康教育学 School Health, Public Health, Social Epidemiology, Behavioral Epidemiology, Health Promotion and Education

生体検査学 Department of Basic Laboratory Sciences

分野	教授名	主要研究概要
生体代謝学 Biometabolic Chemistry	原嶋 奈々江 HARASHIMA Nanae	生化学、分子細胞生物学、腫瘍免疫学 Biochemistry, Molecular and cell biology, Tumor Immunology
分子遺伝学 Molecular Genetics	中尾 浩史 NAKAO Hiroshi	分子遺伝学、細菌学 Molecular Genetics, Bacteriology
形態病理学 Morphological Pathology	金城 貴夫 KINJO Takao	病理学、臨床細胞学、実験病理学、沖縄県の感染症の病理学的及び分子生物学的解析 Pathology, Clinical Cytology, Experimental Pathology, Molecular and Pathological Analysis of Infectious Diseases in Okinawa

医学部保健学科 School of Health Sciences in Faculty of Medicine

病態検査学 Department of Clinical Laboratory Sciences

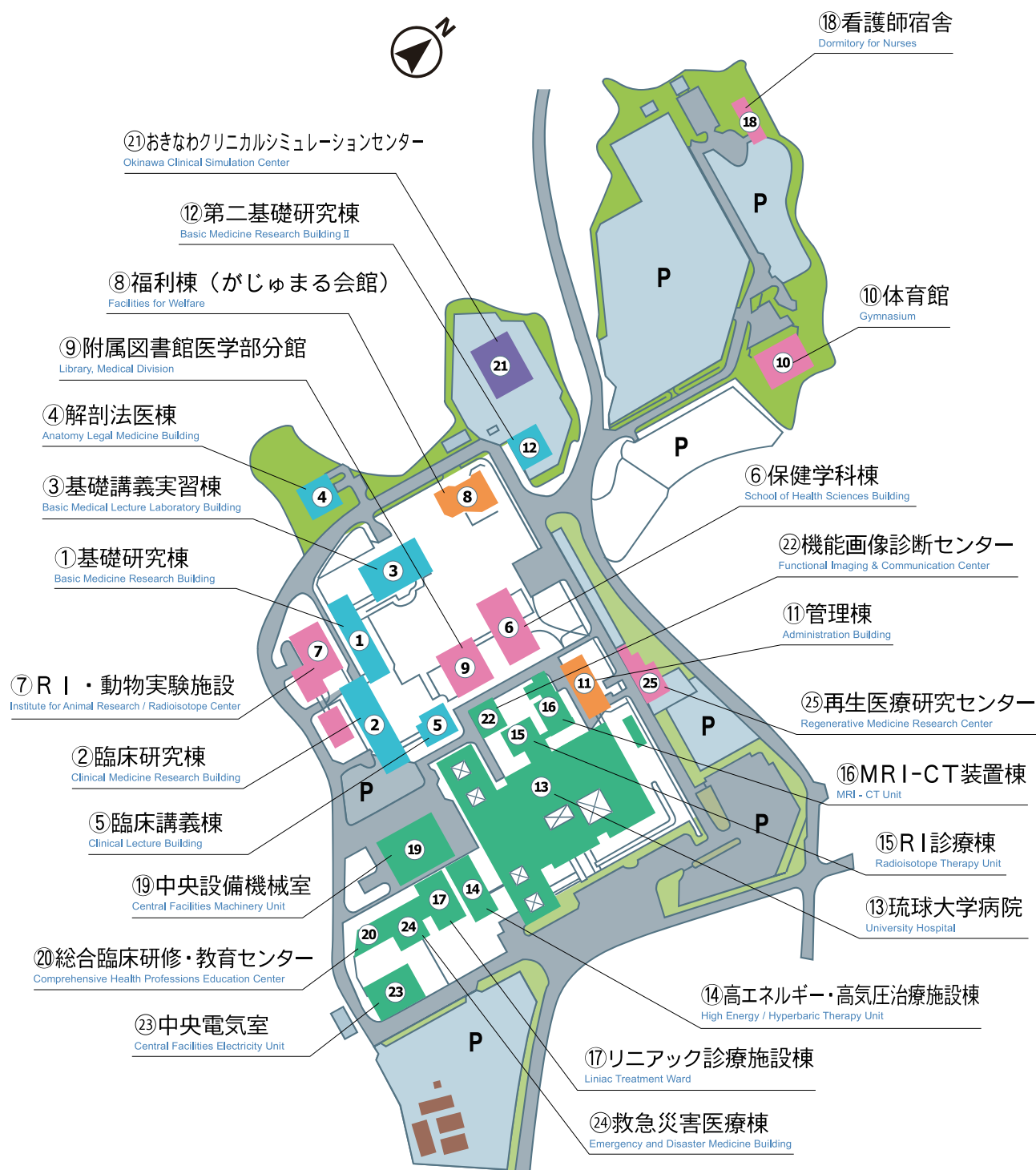
分野	教授名	主要研究概要
病原体検査学 Microbiology	平井 到 HIRAI Itaru	微生物学、腸内細菌学 Microbiology, Intestinal Bacteriology
生理機能検査学 Clinical Physiology	粟田 久多佳 AWATA Hisataka	腎臓病学、生理機能検査学 Nephrology Clinical Physiology
血液免疫検査学 Hematoinmunology	福島 卓也 FUKUSHIMA Takuya	血液学、成人T細胞白血病・リンパ腫の臨床研究及び分子生物学的研究 Hematology, Clinical Study and molecular biology of adult T-cell leukemia-lymphoma

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

分野	教授名	主要研究概要
共通機器・RI研究支援分野 Division of Shared Equipment and RI Research Support	岸本 英博 KISHIMOTO Hidehiro	分子細胞生物学、生化学、病理学、医療情報学 Molecular Cell Biology, Biochemistry, Pathology, Medical Informatics
マルチオミクス解析支援分野 Division of Multiomics Research Support	鈴木 健夫 SUZUKI Takeo	ケミカルバイオロジー、システム生物学、分子生物学 Chemical Biology, Systems Biology, Molecular Biology
動物実験支援分野 Division of Experimental Animal Research	高山 千利 TAKAYAMA Chitoshi	発生遺伝学、マウス発生工学 Developmental Genetics, Mouse Genetic Engineering
臨床研究総合支援分野 Ryukyu Clinical Research Unit	植田 真一郎 UEDA Shin-ichiro	臨床研究立案、計画作成、実施支援、データ管理、解析、品質管理、文書作成、臨床研究トレーニング、教育プログラム作成 Support for Clinical Research Planning, Protocol Development, Conducting, Data Management & Analysis, Quality Management & Assurance, Medical Writing, Clinical Research Training, Development of Education Program
生物統計支援分野 Division of Biostatistics	米本 孝二 YONEMOTO Koji	生物統計学 Biostatistics
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	前田 士郎 MAEDA Shiro	沖縄バイオインフォメーションバンク構築、生活習慣病関連ゲノム研究、標準ゲノム配列情報整備 Construction of Okinawa Bio Information Bank, Genetic Study for Life-style Related Diseases, Preparation of The Reference Panel Sequence for The Okinawa Population
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	高槻 光寿 TAKATSUKI Mitsuhsa	再生医療、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
感染症分野 Division of Infectious Disease Research	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu	感染症における、病原性解明に関する研究、疫学的研究、及び創薬・診断キット開発に関する研究 Researches on pathogenicity, epidemiology, and development of therapeutic molecules and diagnostics devices for infectious diseases.
メディカルDX・医工連携分野 Division of Medical Digital Transformation and Medical Engineering	横田 秀夫 YOKOTA Hideo	医工学、デジタルトランスフォーメーション、人工知能 Medical Digital Transformation, Medical Engineering, AI
ブレイン・ヘルスケア学講座（寄附講座） Department of Brain Healthcare	石内 勝吾(特命教授) ISHIUCHI Shogo	健康長寿学、ブレイン・ヘルスケア、脳科学 Healthy Longevity Science, Brain Healthcare, Brain Science

医学教育企画室 Office of Medical Education

施設	教授名	主要研究概要
医学教育企画室 Office of Medical Education	山城 哲 YAMASHIRO Tetsu	医学教育学 Research on Medical Education



土地及び建物 Site and Floorage of the Buildings

面積 Area	敷地面積 建物総面積	Site Total Floorage
		138,174㎡ 98,323㎡

建設年度 Year of Construction

名称 Name	建面積 Floorage	延面積 Total Floorage	建設年度 Year of Construction
① 基礎研究棟 Basic Medicine Research Building	962 m ²	7,931 m ²	昭和58年 1983
② 臨床研究棟 Clinical Medicine Research Building	1,046 m ²	8,436 m ²	昭和59年 1984
③ 基礎講義実習棟 Basic Medical Lecture Laboratory Building	1,107 m ²	3,074 m ²	昭和57年 1982
④ 解剖法医棟 Anatomy / Legal Medicine Building	577 m ²	1,142 m ²	昭和57年 1982
⑤ 臨床講義棟 Clinical Lecture Building	609 m ²	1,240 m ²	昭和58年 1983
⑥ 保健学科棟 School of Health Sciences Building	1,143 m ²	6,252 m ²	昭和58年 1983
⑦ RI・動物実験施設 Institute for Animal Research / Radioisotope Center	1,395 m ²	3,961 m ²	昭和58年 1983
⑧ 福利棟 (がじゅまる会館) Facilities for Welfare	990 m ²	1,687 m ²	昭和58年 1983
⑨ 附属図書館医学部分館 Library, Medical Division	761 m ²	1,403 m ²	昭和59年 1984
⑩ 体育館 Gymnasium	1,247 m ²	1,063 m ²	昭和60年 1985
⑪ 管理棟 Administration Building	741 m ²	1,967 m ²	昭和59年 1984
⑫ 第二基礎研究棟 Basic Medicine Research Building II	473 m ²	829 m ²	平成 2年 1990
⑬ 琉球大学病院 University Hospital	8,233 m ²	40,386 m ²	昭和59年 1984
⑭ 高エネルギー・高気圧治療施設棟 High Energy / Hyperbaric Therapy Unit	734 m ²	821 m ²	昭和59年 1984
⑮ RI診療棟 Radioisotope Therapy Unit	338 m ²	624 m ²	昭和62年 1987
⑯ MRI-CT装置棟 MRI - CT Unit	705 m ²	709 m ²	平成 3年 1991
⑰ リニアク診療施設棟 Liniac Treatment Ward	294 m ²	293 m ²	平成元年 1989
⑱ 看護師宿舎 Dormitory for Nurses	316 m ²	1,384 m ²	昭和59年 1984
⑲ 中央設備機械室 Central Facilities / Machinery Unit	1,287 m ²	1,647 m ²	昭和58年 1983
⑳ 総合臨床研修・教育センター Comprehensive Health Professions Education Center	697 m ²	1,284 m ²	平成24年 2012
㉑ おきなわクリニカルシミュレーションセンター Okinawa Clinical Simulation Center	878 m ²	2,288 m ²	平成24年 2012
㉒ 機能画像診断センター Functional Imaging & Communication Center	507 m ²	1,952 m ²	平成25年 2013
㉓ 中央電気室 Central Facilities / Electricity Unit	439 m ²	611 m ²	平成25年 2013
㉔ 救急災害医療棟 Emergency and Disaster Medicine Building	742 m ²	680 m ²	平成26年 2014
㉕ 再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center	554 m ²	812 m ²	平成27年 2015
㉖ 駐車場、その他 Parking Place, Others	3,539 m ²	5,847 m ²	
面積計 Floorage	30,314 m ²	98,323 m ²	